勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社

大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

韓国で見たハンドボール

関西学連理事・新井節男

第13回日韓親善大学ハンドボール大会の遠征チームは、東海学連選抜チーム男女で、今回は滞同審判制の先鞭をつけようという意図もあって大学関係の審判員である私と望月伸三郎氏が韓国遠征に同行した(経費自己負担である)。韓国側の立案に基づく日程で、前半は男女チームが別行動をとることとなったため、我々審判員は男子と行動を共にすることにした。したがって戦績等についても男子のみについて記す。

混成チームであり、猛暑の中の移動と連日の試合のため体力的なハンディキャップもあり、戦績は1勝4敗であった。日本チームの敗因は、一応国際ゲームということによるとまどい（あがり）とディフェンスにおけるツメの甘さ、そして松やに使用の不慣れからくるパスコントロールの乱れであった。

さて韓国のプレーの印象について述べる。韓国のハンドボールゲームは全てインドアで行なわれ、ハンドリングキャパシティの拡大のため松やにを用いているそうである。

①したがってゴールショットのフォームは肩を中心とした回転型のスローイングであり、外側へのパスは前座試合の中学生女子チームですらラテラルパスを常用化しており、ボールを握っていることからフェイント動作は大きい（体前面より大幅に側方にボールを移動させる大きなアクションを示す）。

②ボールを片手で完全に操作しうることは、上肢と下肢の動きに従来我々が考えていたものと異った動作の可能性を生じる。すなわちジャンプの方向性である。衆知の如く、両足ジャンプは片足ジャンプよりも垂直跳の距離が大きい。右手投げのシューターの左足ジャンプよりも右足ジャンプの方が滞空時間が長い。左肩を前に出しての左足によるやや側方へのキック力は、つま先方向を進行方向に向けたキック力よりも弱い。この最後のシュートフォームは、11人制のフィールドにおけるロングシュート時に全身のローテーションを用いて投げるためのステップシュートに原型がある。松やにをつけ片手で操作しうるシュートモーション時のジャンプシュートは、足先方向を進行方向に向けたキックで可能なためにやや横むきのキックジャンプより高く跳び上ることが出来る。この点は、今後の日本の球界の改良課題であろう。

③基礎体力の差を感じた。持久走的な体力と気力、そして瞬間的なパワー、これらはスポーツにおけるハングリー性と結びつくものかもしれないが、ボールに対する執着心やディフェンスでのボディーチェックなどは学ぶべきものを感じた。

④日本チームの勝った唯一のゲームでは、ディフェンスのつめが相当にボール廻しをおさえ、オフェンスではサイド攻撃を両側より仕掛け成功させ、ついでセンター部分でのカットイン、ポストプレーが成功したケースであった。すなわち、韓国ディフェンスは両45度の間をかなり濃厚に固める傾向が全体にみられた。

次に韓国でのレフェリングについての感想を述べる。この国では一九八一年度の新ルールは8月1日より施行された。ソウルに本部協会のある関係上地方協会への伝達講習は遅れがちになるのは日本と同様である。最も問題となったルール解釈上の点は、ペナルティスロー時にゴールキーパーが交代出来るかどうかという点である。彼の国の国際審判員朴千祥氏の判断によれば、この時期はインプレー中であるので交代は認められず不正交替になるという。お互いの語学力の違いで詳細判断基準が解らないが、日本では容認されている。帰国後国際審判員光島磯雄氏にたずねたら日本の解釈が正しいという。国民性かトップの指導者の性格の影響をうけているのか笛の鳴らし方がまた違う。首から紐で短かくつるした笛を常に口にくわえてピッピッピッとやる。これはソウルでのレフェリーにはなかったが、釜山から大邸、大田、清州と前座を含む試合を担当したレフェリーのうち国際審判パネルAを含む延べ12名のうち半数がこの交通巡査のような笛であった。攻防における身体接触の反則の基準ではそれほどのひらきはなく、クリーンハンドボールをめざして素速く動き的確な判定を下す若いレフェリー諸氏であった。

以上今回の遠征中に印象に残ったことを報告する。なおこの場をかりて韓国学連・協会の役員諸氏による誠実な遠征チームへの接待を深く感謝申し上げる。

『ハンドボール』

56年10月号(第201号)目次

【表紙写真】世界選手権アジア予選、日本対中国戦
提供・スポーツイベント

第10回世界男子選手権アジア予選

日本7回連続して代表権獲得!



日本は、苦しい試合を、みごとなチームワークで乗り切り、7回連続して世界選手権へのアジア代表権を握った——第10回世界男子選手権アジア地域予選B組（第1代表決定戦）は、日本、韓国、中国の3カ国リーグによって、9月16日から18日まで東京・駒沢屋内球技場と東京体育館で行われた。

過去、圧倒発な強味を示し、アジアのナンバー・ワンとして君臨していた日本は、今春2月のクウェート国際で2位になるなど（＝本誌193号参照）、その王座にかげりがのぞきはじめ、この予選は、一つのヤマ場とみられていた。

しかし、日本は、中国戦の後半に逆転で主導権を握ってから、一気の攻勢、韓国戦も、完勝といってよいデキで、鮮やかに本大会へのパスポートを握り、「打倒日本」に気負いこんでいた中、韓両国を突き放した。

本大会は、来年2月23日から西ドイツで行われるが、アジア地域は、日本のほか、史上初めて第2代表としてクウェート、イラク、パレスチナのうち一カ国が出場権を得ることになっている。

なお、今回の予選に参加が予定されていた台湾は、呼称問題から棄権を申し出てきた。

〈第1戦〉

韓国×中国

第1戦・中国×韓国の試合は、9月16日18時50分から東京・駒沢屋内球技場で行われた。審判＝斉藤実、千野恒夫（ともに日本）、公式計時員＝光島磯雄、狩野幸介（ともに日本、以下2戦も同じ）観衆＝約八百。

韓国 26（12—12, 14—11）23 中国

得	【韓国】		【中国】	得
0	林圭夏	GK	謝継勇	0
0	金良鉉	GK	張　悦	0
4	林英詰	FP	李英才	9
7	姜泰求	FP	金百錬	2
1	姜徳寿	FP	郎正平	2
9	崔太燮	FP	夏　抑	1
3	李相孝	FP	王　雄	1
2	朴秉洪	FP	宋安文	4
0	呉世動	FP	李太平	0
0	孫竜一	FP	鄧善軍	1
0	鄭容昊	FP	王躍庭	1
0	成永俊	FP	高忠信	2
26	（4）	PT	（4）	23

○…中国は、5月のジャパンカップとは、またメンバーを代えてきた。

一昨年のモスクワ・オリンピック予選で"復活"後、激しかった異動の集大成、これがベストメンバーといえるものだったのだろうか。

それだけに、日本、韓国両国コーチングスタッフは、警戒を強めその無気味さに不安を隠し切れなかった。

試合は、さぐり合いの序盤から、しだいに中国優勢となり、李英才の巧技などあって16分2点差（8—6）がついた。



しかし、韓国は、中国ディフェンスが大きいだけで、動きに鋭さがないと看破したのか20分を過ぎるあたりから、個人技主体の反撃に移るという思い切った策をとり、23分以降、崔太燮と林英詰の4連続ゴールで、あっさり逆転した。

こうなると、中国に、はっきり焦りがのぞきはじめ、強引な射ち急ぎから、韓国の逆襲をうけ、完全に主導権を奪われた。

後半6分18—12とリードを拡げた韓国は、マイペースで試合を進め、いちど波に乗せたら手のつけられぬ若手の勢いを感じさせた。

中国は、10分すぎ3本のPTを活かすなど、20分には19—22まで追いあげたが、余裕をのぞかせていた韓国は残り5分、ダメ押しともいえる2ゴールを加え24—20、勝利を動かないものとした。

中国は、李英才のシャープな動きが目立ったが、注目の金百錬はやや不調。

スタンドで観戦の竹野全日本男子監督は「25—20ぐらいで中国」とみていたそうだが、思わぬ中国のもろさと、逆に韓国若手のほん放な試合ぶりに、対策のたてなおしを迫られたようだった。

＜第2戦＞

日本×中国

第2戦・日本×中国の試合は、17日18時50分から東京体育館で行われた。審判＝朴千祚、朴鍾甲（ともに韓国）、観衆＝約二千。

日本	前半	後半	中国
18	11—7	7—10	17
18（1）	PT	PT	（2）17

【中国】		得
GK	謝継勇	0
GK	張悦	0
FP	鄭善軍	2
FP	李英才	0
FP	金百錬	6
FP	江山明	0
FP	宋安文	4
FP	張生	0
FP	王雄	1
FP	夏抑	3
FP	郎正平	0
FP	高忠信	1

【日本】		得
GK	福井	0
GK	大畑	0
FP	津川	1
FP	大原	6
FP	蒲生	4
FP	池ノ上	5
FP	斉藤将	0
FP	穂積	0
FP	関	2
FP	中本	0
FP	斉藤幸	0
FP	生駒	0

○…日本を声援する者にとっては胃の痛くなるような展開だった。

スタートこそ日本は、蒲生、津川らで5分3—1としたが、中国は、前日不振の金百錬が豪快なジャンプショットとロングシュートで日本守備網を突き破り、11分王雄のPTで5—4と逆転、15分鄭善軍で6—4とした。



日本は、この間PTの失敗などあって、完全に受け身、23分5—9と引きはなされた。

たまりかねたバックスタンドの若いファンたちが〃大声援〃を送ったが、他の観客まで波及せず、重苦しい雰囲気のまま5分を切った。

日本はようやくここで大原が決めたが、中国も29分夏抑で10—6優位をキープする。

このあと日本は、貴重なゴールをあげる。相手ミスから一気の速攻で大原がなだれこみ7—10、ゴールと同時に、前半終了となった。

僅かなスキを逃さぬ大原の俊敏な攻撃が生んだ美技で、結果論ながら、この1点が、後半の大逆転の足がかりになったといえる。

4点差と3点差では大違いなのだ。

○…後半、日本は、見ちがえるように動きがよくなり、2分、5分大原の速攻が決まって9—10、大原の前半26分以降の連続4ゴールは、記憶に残すべきビッグプレーといえた。

中国は7分宋安文が1点を加えたが、勢いはすでに日本のもの。8分のPTを池ノ上が決めたあと蒲生が、相手のきついマークを巧みに切り崩す巧技で、ついに11—11とした。

パワー一本とみていた蒲生の、このプレーは、中国ディフェンスを精神的にゆさぶる効果もあげ、日本はすかさず、9分池ノ上、10分大原、12分蒲生とたたみか、さらに池ノ上のロングなどで20分16—14と先行した。

前半25分時点での3点差から数えれば、約25分間で一気にハンデをはね返したことになり、日本の底力健在を感じさせる場面であった。

だが、このみかたは甘かった。中国は19分高忠信、20分金百錬で16—16と粘りついてきたのだ。

金百錬の左右両投によるダイナミックな攻撃は、4年前の第1回アジア選手権（クウェート）で、得点王となった時のプレーを、ほうふつさせるもので、彼の一発必中のパワーは、残る10分の展開を、中国有利に導くのではないかと思わせた。

20分40秒大原で17—16、さらに24分大原—関コンビの速攻で18—16としたのだが、日本陣営に、余裕は生れない。

はたして27分20秒、中国は夏抑の速攻で17—18、同点、逆転の手がかりをつかんだのだ。

日頃おとなしい日本のファンもこうなれば騒然。

しかも、夏抑のシュートを防ぎに前へ出て、中国選手の身体ともつれあったGK福井が、反則退場を宣せられて、エキサイトした場内のボルテージは、最高値に達した。福井は、それまで再三再四の美技をみせ、日本を救っていたのだ。

残り2分30秒、日本ボールの速攻がパスミスでつぶれて、中国ボール。

試合後、竹野監督は「引き分けを覚悟した」というが、もし、ここで、中国が冷静に攻めこんでいれば、日本は引き分けどころか、逆転の苦汁さえのまされていたかもしれない。

中国は、この〃好機〃を、場内の雰囲気に押されたのか凡失で逃し、残り30秒、日本ボールとなって、その逃げ切りが成ったと思われた。

ところが、ここから大ハプニングがつづく。

左コーナーに攻めこんでいた日本のプレーが、一方の審判にオーバーステップ、一方にストーリングを宣せられ、ボールを持っていた大原が、静止してボールを置かなかった、という判定で退場を宣せられてしまう。

中国は、最後のチャンスに恵まれて、すばやい動きから夏抑—張生とノーマークのパス。日本はどたん場で引き分けに持ちこまれたかと思われたが、GK大畑が、すばらしいタイミングで張生のシュートをはじきとばし、一転、勝利を呼びこんだ。

とびあがる日本ベンチを無視するかのように、レフェリーは、な

んと、中国に攻めなおしを伝える。

夏抑のパスした地点が違っていた、というのだ。

おさまらないファンの怒号の中で、試合は再開、中国が二つほどパスをつないだところで、試合終了のホイッスルが鳴り、乱戦の幕がおりた。

日本の大逆襲成功によるエキサイティングな好試合といえたが、後半なかばすぎから、両軍ベンチもオフィシャルも、レフェリーも感情を高ぶらせるシーンが多く、やたらにレフェリータイムがとられ、興をそいだ。

タイトルマッチの異常さ、といえばそれまでだが、記者にいわせれば、レフェリーを参加国滞同制にした安易さに、遠因がある。（杉山　茂）

＜第3戦＞

日本×韓国

第3戦・日本×韓国の試合は、18日18時50分から東京体育館で行われた。審判＝H・シェーニング B・ヴァルツ（ともに西ドイツ）観衆＝約二千二百。

日　本 29（11－14、18－10）24 韓　国

【順位】①日本勝ち点4（2勝）②韓国2（1勝1敗）③中国0（2敗）。参加を予定された台湾は棄権。

【日本】	得		【韓国】	得
福井	0	GK	林圭夏	0
岡部	0	GK	金良鉉	0
津川	2	FP	林英喆	6
西山	2	FP	姜徳寿	0
関	2	FP	姜泰求	4
蒲生	7	FP	成永俊	0
池ノ上	7	FP	李相孝	6
山本	5	FP	朴秉洪	6
大原	2	FP	崔太燮	2
穂積	0	FP	孫竜一	0
斉藤将	2	FP	呉世勲	0
松井	0	FP	鄭容昊	0
29（3）		PT	（3）24	

○…前夜の大激戦をともかくモノにして、日本には、僅かだが緊張のほぐれがのぞけた。

それに引きかえ韓国は、重圧に押しつぶされたように、試合前、ほとんど口を聞く選手がいない。

日本は30秒たつかたたぬ時にホープ西山が左45度から強烈なシュートを決め、いっそう気勢があがった。

西山は、全日本がビッグマッチで久々に迎える学生選手（筑波大）である。

彼の合宿参加で「新風が吹きこんだ」（東コーチ）といわれ、ベテラン揃いのチームに、活気をよみがえらせた功績は、大会前から、関係者の間で、評価されていたものだ。

世界学生選手権得点王（昨年12月）という肩書き付きとはいえ、全日本での公式戦未経験という西山を、この大一番に先発させたコーチングスタッフの期待は、相当なものがあった、といってよい。

その西山が先制ゴールを奪ったのだ。

負けじと池ノ上が射ち、蒲生が射って、好調の滑り出しとなったが、守備での集中力に欠け、点差は8分5－4、さらに11分姜泰求にゴールを許し、並ばれた。

このあと、韓国はPTを得るがスロアーは、日本のGK福井の顔面目がけてシュートを投げつける。

福井は、この一投を捌くや、満面に怒りの色を現したものだ。

韓国選手が、どのような気持ちで、こんな乱暴なプレーをしたのかは分からぬが、記者席からみれば、なんとかプレッシャーから逃れたい一心の若さを暴露したものと思えた。いずれにせよ賞められたプレーではない。

このプレーを境に、日本は守りも落ち着きを取り戻し、攻めては中国戦を負傷で欠場していた山本が、PTを〝代打〟で決めるなどしながら、みごとに戦列復帰、10分には11－7と点差をあげた。



韓国は、2年前のモスクワ・オリンピック予選（台湾）のメンバーがほとんど残り、この顔ぶれがロサンゼルス・オリンピックを狙うものと予想される。

平均年令19・9才という若さは波にのると、中国戦のような力を爆発させるが、いちどリズムを断ち切られると、ペースを取り戻すのに時間がかかる。

この試合は、その弱点がベンチの予測より、早い時間に出てしまった。

このため日本は、再三反則退場者を出したが、一本調子の韓国につけこまれるようなこともなく過ごせた。

前半残り5分から、日本は再スパート、池ノ上、山本らの活躍でついに8点差をつけた。

○…日本は、後半も10分すぎから猛攻をみせて、18分25－17と勝利を確定的にするのだが、前半なかばから、ここらあたりまでの攻守は、モスクワ・オリンピック前の充実に、立ち戻ったといってよい。

モスクワ不参加のショック、そのあとの虚脱、クウェート国際での低迷、ジャパンカップにおける全日本B戦の敗北など、全日本の周辺は、さっぱりとした話題に欠けた。

この予選を迎えるにあたっての評判も「楽勝」という声は一つもなかった。それどころか「危うし」の声さえ聞こえた。かつてなかったことだ。

その苦境を乗りこえて、世界選手権行きを決めた感激は、これまた、歴代の全日本の選手にはない味わいであろう。

一方、韓国は、少々のリードなら、はね返せる自信を抱いていたようだが、日本にきっちり守られては、やはり、一目を譲らざるを得なかったようだ。

柳在忠コーチは「選手たちが、なんとか次の機会につながるプレーをしようとしていたのが収獲」といっていたが、落たんの色をかくせなかった。

日本は、試合終了とともに、前例のないウイニング・ランで場内のファンに応えた。

選手もスタンドも「勝つのがあたりまえ」の時代が去ったことを知っている、といえる。

これからあとのアジアでの戦いは、厳しくなりこそすれ、やわらぐことは、絶対にあるまい。（杉山）

荒川清美・日本協会専務理事の話　中国戦を比較した時、日本は相当、韓国にてこずるのではないかと思われたが、よく勝った。

やはり、選手のキャリアがモノをいったようだ。モスクワ・ショックにめげず、頑張ってくれた人たちの努力に敬意を表したい。

しかし、中、韓両国のレベルア

ップは目ざましいものがあり、日本も若手、後続層の充実につとめなければなるまい。今冬の世界ジュニア代表の成長も、一つのカギだろう。

竹野奉昭・全日本男子監督の話

こんな嬉しい勝利は久しぶりだ津川がよくチームをまとめてくれたし、福井が2試合とも、よく守ってくれた。

二人のベテランの活躍で、他の選手も力を出し切れた。

本大会のことは、年内いっぱいをかけて、ゆっくり考える。

津川昭・全日本男子主将の話

先輩たちが握りつづけていた世界選手権へのパスポートを守れてよかった。ともかくホッとした気持ちです。

本大会では東ドイツらと

第10回世界選手権は、来年2月23日から3月7日まで、西ドイツで開かれる。

出場国は16で、すでに日本(アジア大陸第1代表)を含め14カ国が決まっている。

予選リーグ(2月23〜26日)の組み分けも、すでに発表されており、日本は緒戦で、モスクワ・オリンピック優勝国として、5月のジャパンカップに来日した東ドイツと顔を合せる。

日本代表チームは、9月19日の強化部総会(東京)では、今冬の第33回全日本総合選手権終了後には発表、とされたが、日本協会は、来年1月のスペイン国際トーナメントに、代表チームの派遣を考慮しており、メンバーの発表は、多少早まるかもしれない。

予選リーグの組み分け次のとおり。

(A組) ソ連、西ドイツ、チェコ、アジア大陸第2代表。

(B組) ハンガリー、スペイン、スウェーデン、アルジェリア。

(C組) 東ドイツ、ポーランド、日本、スイス。

(D組) ルーマニア、ユーゴ、デンマーク、アメリカ大陸代表。

準決勝リーグは1組が予選リーグA、C組の1、2位、2組がB、D組の1、2位。

予選リーグ各組3、4位は13〜16位決定リーグを行う。

台湾、姿を見せず

今回のアジア予選には、当初、台湾(中国台北ハンドボール協会)がエントリーしていたが、9月に入ってから、台湾側は「チャイニーズ・タイペイ」の漢字表記は「中華台北」である、と主張してきた。

日本協会は、今回のすべての呼称は、「チャイニーズ・タイペイ」で行い、ユニホームのマークも「中華」であってはならないとした。

この日本協会の態度に、台湾側は強く抗議、結局9月15日東京における参加国代表者会議を欠席、棄権となった。

台湾の棄権によって、日本×韓国選のレフェリーが"空席"となったため、IHF(国際ハンドボール連盟)は、西ドイツからH・シェーニング、B・ヴァルツの両氏を急派した。

津川が公式国際戦50回

アジア予選最終戦日本×韓国戦で、全日本男子の主将をつとめる津川昭選手(湧永薬品)が、公式国際戦出場50回となり、日本協会から恒例の記念トロフィーが贈られた。史上10人目。

第10回世界選手権アジア予選 B組参加国オールメンバー

◇……日　本……◇

○GK
福井　秀人(湧永)180cm
岡部　　大(大崎)182
大畑　孝広(本田)184
○FP
津川　　昭(湧永)180
山本　伸二(湧永)178
穂積　豊彦(湧永)180
生駒　靖夫(湧永)185
池ノ上孝司(湧永)185
蒲生　晴明(大同)192
中本　満明(大同)184
大原　真造(大同)175
関　　健三(三陽)180
斉藤　幸司(大崎)174
斉藤将一郎(湧永)187
松井　幸嗣(栃業)178
西山　　清(筑大)181

◇……韓　国……◇

○GK
安鎮洙(19才)182cm
金良鉉(22　)184
林圭夏(23　)185
○FP
姜德寿(22　)177
姜泰求(20　)176
林英喆(21　)173
李相孝(20　)181
朴秉洪(18　)176
呉世勲(19　)178
成永俊(21　)189
孫當一(20　)179
片満範(20　)180
鄭容昊(18　)183
鄭東鎮(18　)181
崔太燮(18　)181

◇……中　国……◇

○GK
謝継勇(26才)183cm
張　悦(23　)187
○FP
李太平(27　)191
李英才(26　)178
王　雄(25　)186
王躍庭(27　)180
金百錬(27　)184
夏　抑(25　)182
郎正平(26　)187
高忠信(23　)187
蔡建国(21　)185
張　生(23　)186
宋安文(23　)187
江山明(23　)190
鄧善軍(21　)184

男子世界選手権大会について

国際担当常務理事　境井秀三

第10回男子ハンドボール世界選手権大会は、一九八二年2月23日から3月7日までドイツ連邦共和国（西ドイツ）に於て開催される。

この大会に参加できるのは、ヨーロッパから12か国チーム、アジアから2か国チーム、南北アメリカ大陸およびアフリカ大陸から各1か国チームの合計16か国チームである。

本大会は、第一次リーグと本ラウンドおよび順位決定戦に分けられており、第一次リーグは一九八二年2月23日から2月26日まで、本ラウンドは2月28日から3月4日に、順位決定戦は3月6日と7日に行われる。

参加16か国は、第一次リーグでは次のABCD4グループに分けられ各グループ内でリーグ戦を行う。

○第一次リーググループ分け

○Aグループ
ソ連、西ドイツ、チェコスロヴァキア、クウェート

○Bグループ
ハンガリー、スペイン、スウェーデン、アフリカ

○Cグループ
東ドイツ、ポーランド、日本、スイス

○Dグループ
ルーマニア、ユーゴスラビア、デンマーク、アメリカ大陸

○第一次リーグの対戦日程、場所

○Aグループ

▽2月23日、於エッセン
ソ連―チェコスロヴァキア
西ドイツ―クウェート

▽2月24日
ソ連―クウェート　於デュイスブルグ
西ドイツ―チェコスロヴァキア　於ドルトムント

▽2月26日　於ドルトムント
チェコスロヴァキア―クウェート
ソ連―西ドイツ

○Bグループ

▽2月23日　於ホンブルグ
スペイン―アフリカ
ハンガリー―スウェーデン

▽2月24日
ハンガリー―アフリカ　於エッペルハイム
スペイン―スウェーデン　於ベルリン

▽2月26日　於ルドウィックスハーヘン
スウェーデン―アフリカ
ハンガリー―スペイン

○Cグループ

▽2月23日　於ハンブルグ
ポーランド―スイス
東ドイツ―日本

▽2月24日　於ブレーメン
ポーランド―日本
東ドイツ―スイス

▽2月26日　於キール
日本―スイス
東ドイツ―ポーランド

○Dグループ

▽2月23日　於ギョッピンゲン
ユーゴスラビア―アメリカ大陸
ルーマニア―デンマーク

▽2月24日
ルーマニア―アメリカ大陸　於エッペルハイム
ユーゴスラビア―デンマーク　於ベルリン

▽2月26日　於ジンデルヒンゲン
デンマーク―アメリカ大陸
ルーマニア―ユーゴスラビア

※第一次リーグの1～3位は本ラウンドに進出し、4位は慰めラウンドに出る。

○本ラウンドの対戦日程、場所

グループI

▽2月28日
Aグループ1位―Cグループ3位　於ハノーバー
Aグループ2位―Cグループ2位　於ハノーバー
Aグループ3位―Cグループ1位　於ブレーメルハーベン

▽3月2日
Aグループ1位―Cグループ2位　於ドルトムント
Aグループ2位―Cグループ1位　於ドルトムント
Aグループ3位―Cグループ3位　於リュベック

▽3月4日
Aグループ1位―Cグループ1位　於ドルトムント
Aグループ2位―Cグループ3位　於ドルトムント
Aグループ3位―Cグループ2位　於デュセルドルフ

グループII

▽2月28日
Bグループ1位―Dグループ3位　於ミュンヘン
Bグループ3位―Dグループ1位　於ミュンヘン
Bグループ2位―Dグループ2位　於オヘンブルグ

▽3月2日
Bグループ1位―Dグループ2位　於ベーブリンゲン
Bグループ2位―Dグループ1位　於ベーブリンゲン
Bグループ3位―Dグループ3位　於ギュンツブルグ

▽3月4日
Bグループ1位―Dグループ1位　於フランクフルト
Bグループ2位―Dグループ3位　於フランクフルト
Bグループ3位―Dグループ2位　於エルゼンフェルド

○順位決定戦の日程、場所

▽3月6日　於ドルトムント
5、6位決定戦　本ラウンドグループI、IIの3位同士
3、4位決定戦　本ラウンドグループI、IIの2位同士

▽3月7日
11、12位決定戦　於ミンデン　グループI、IIの6位同士
9、10位決定戦　於ミンデン　グループI、IIの5位同士
7、8位決定戦　於ドルトムント　グループI、IIの4位同士
1、2位決定戦　於ドルトムント　グループI、IIの1位同士

○慰めラウンド

▽2月28日
Aグループ4位―Bグループ4位　於ギュテルスロッホ
Cグループ4位―Dグループ4位　於オスナブルック

▽3月1日
Aグループ4位―Cグループ4位　於ハルテルン
Bグループ4位―Dグループ4位　於ブレイク

▽3月3日
Aグループ4位―Dグループ4位　於ギュンゼベック
Bグループ4位―Cグループ4位　於ウンナ

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

SPECIAL

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.



兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06-305-1431 ; 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03-634-1411

第10回全国中学校大会

男子 神森中（九州・沖縄）が初、女子 鶴城中（九州・熊本）2年ぶり3度目の優勝

今年で10回を迎える全国中学校大会は、8月21日から23日まで、山口県徳山市体育館・徳山高校体育館に於いて全国からの代表、男女各16校が参加して激戦が行われた。

今大会も例年にたがわず、ハイレベルの好ゲームが展開された。

男子は神森中（沖縄県浦添市立）が初めての、女子は鶴城中（熊本県宇土市立）が2年ぶり3回目の優勝を飾った。

桜木、健闘

▼男子1回戦　8月21日

西中原（関東・神奈川）17（10－2、7－6）8 土佐（四国・高知）

○…西中原はディフェンスが堅く、土佐の攻撃をはばみゲームをものにした。

汐路（東海・愛知）17（8－3、9－7）10 豊中第四（近畿・大阪）

○…汐路が攻撃・防御ともにまさり、快勝。前半、豊中のディフェンスの甘さをつきロングシュート、ポスト攻撃がよく決まり、8－3とリード。豊中は前半ラインクロス、パスミスなどもあってリードされたが、後半になって動きがよくなり速攻などで3点差まで詰め寄った。しかし、汐路も相手のミスを確実に得点し、点差をひろげた。

芦城（北信越・石川）17（8－4、9－8）12 時津（九州・長崎）

○…両チームとも動きは激しいが、コンビネーションプレーより個人プレーが多い展開となった。

前半15分あたりから時津の帰陣が遅く、芦城がたたみこむように速攻を決め勝利に導いた。

下松（中国・山口）29（13－6、16－5）11 緑南（北海道）

○…個人技術、チームプレーともに下松が優れ、その差が点に反映したゲームであった。

岐陽（開催地）19（7－2、12－6）8 信夫（東北・福島）

○…両チームとも立ちあがりに固さが見え、ミスが目立ったが、岐陽がロングシュートの連続ゲットでペースをつかみゲームを有利に進めた。

一方、信夫はミスが続き、力を十分出しきれなかった。

桜木（関東・東京）15（6－9、9－5）14 西部（北信越・富山）

○…両チームとも動きがよく、激しい攻防を終始展開した。

前半、桜木は単発のシュートからのミスが多く、西部が数少ないチャンスをものにして9－6とリード。

後半に入り、桜木の反撃が始まり、GKの好守もあって5分で逆転し、そのまま桜木が逃げ切った。

両チームとも技術が優れており、好ゲームを展開した。

生駒（近畿・奈良）21（13－4、8－7）11 加納（東海・岐阜）

○…走力、パスワーク等の差が前半の得点差になった。加納も最後までよく粘ったが、前半の得点差が大きすぎた。

神森（九州・沖縄）18（9－1、9－3）4 操南（中国・岡山）

○…両チームとも、パス、キャッチ、ノーマーク等のミスが目立ち、ディフェンスも甘く全体的に盛り上らないゲームになったが、体力、スピード、技術等に上回る神森が順当に勝利を決めた。

▽同準々決勝（8月22日）

芦城 14（7－6、7－7）13 西中原

○…1点を争う好ゲーム。

前半、西中原がロングシュート等でリードするが、前半終了間ぎわに芦城が逆転。後半、今度は西中原が逆転。しかし、芦城が2人退場する間に西中原は得点できず、後半終了間ぎわに芦城のゴールでタイムアップ。

汐路 13（5－4、8－4）8 下松

○…両チームとも、ボール扱いがスピーディで好ゲームだったが汐路のディフェンスが堅固で、下松の得点をおさえ、汐路はロングシュート、ポストプレーで、下松を下した。

生駒 17（8－5、9－8）13 岐陽

○…立ち上り岐陽は2点連続ゲットで好スタートを切ったが、7分を過ぎたころから生駒に固さがとれ、速攻等で逆転し前半を生駒リードで終る。

後半、岐陽は6分半に同点にするが、12分過ぎには生駒がペースを取り戻し、岐陽のシュートミスからの逆速攻等で得点を重ね生駒が勝利。

神森 20（8－9、12－9）18 桜木

○…大型でスピードのあるチーム同士の一戦。両チームともロングシュートの打ち合いで試合が開始。前半はシュートを着実に決めた桜木が1点リードで終る。

後半は、調子を上げてきた神森が連続ゴールで一気に逆転し、桜木の反撃をかわし逃げ切った。桜木は追いつこうとする矢先に、キャッチミス、パスミスが出、追いつくチャンスを失うかたちになった。

激戦の準決勝

▽同準決勝（8月22日）

生駒 17（5－7、10－8、1－1、1－1、PTC 2－1）17 芦城

○…PT合戦までもつれこんだ熱戦。

前半、生駒が吉川、大本の得点で2点先行するが、芦城も7分過ぎに山田、古谷の得点で、同点にするなど一進一退のゲーム進行。芦城がペナルティをうまく生かし

PTC	得	【生駒】		【芦城】	得	PTC
	0	政田	GK	釜田	0	
	0	仲田	GK	竹田	0	
	3	吉川	FP	山田	5	
	3	大本	FP	関戸	1	
	3	浜野	FP	堀戸	0	
1	6	坂口	FP	泉	6	1
	2	本山	FP	古谷	3	
	0	島添	FP	藤本	1	
1	0	岩本	FP	北川	1	
	0	木下	FP	吉田	0	
	0	平山	FP	園下	0	
	0	三ツ川	FP	八田	0	
2	17	(2)	PT	(5)	17	1

（審・中村・岡村）

てと7−5リード。

後半、生駒は坂口の放つロングシュートの連続得点で追いつくが、この後は点の取り合いの展開。残り3分芦城・坂口の得点でリードを奪うが、今度は生駒・本山が終了間ぎわに起死回生のシュートを決め延長戦へ勝負を預ける。

延長戦も一進一退のゲーム。生駒・吉川が先取点を取れば芦城も泉のペナルティースローで取り返す。また生駒・吉川のシュートでリードすれば芦城・古谷の得点で追いつき、2−2で勝敗決まらず、PT合戦へ。

PT合戦は、緊張の中で行われ両チームにシュートミス、ラインクロスがあり、1−1の後生駒が2点目を岩本が決め決勝進出を決めた。

神森 19（8−13／11−5）18 汐路

○…前半は両チーム互角の滑り出し。汐路のディフェンスが厚く神森が攻めあぐんでいる間に、逆

得	【神森】		【汐路】	得
0	新城	GK	水谷	0
0	栗国	GK	岩田	0
1	島尻	FP	塩坂	6
7	松田	FP	近藤	4
1	崎浜	FP	疋田	2
3	儀間	FP	久保田勝	3
3	宮城	FP	沢田	0
4	當間	FP	多田	3
0	知花	FP	鯨井	0
0	玉城	FP	久保田信	0
0	新城	FP	横井	0
0	前川	FP	米山	0
19	(3)	PT	(3)	18

（審・東・中本）

に汐路が多彩な攻めで得点を重ね13−8と5点のリードで前半終了。

後半に入り神森は汐路の攻撃に対し、守りを、パスカットを狙う布陣にし、パスカットから速攻へとつなぎ、得点を重ねる。15分には3点差と迫り残り5分を汐路の得点を抑えるとともに、得点を重ね、タイムアップ寸前のペナルティースローを決め大逆転で勝利をおさめた。

▽同決勝（8月23日）

神森 19（9−5／10−7）12 生駒

得	【生駒】		【神森】	得
0	政田	GK	新城	0
0	仲田	GK	栗国	0
3	吉川	FP	島尻	2
1	大本	FP	松田	10
3	浜野	FP	崎浜	0
4	坂口	FP	儀間	4
0	本山	FP	宮城	2
1	島添	FP	當間	1
0	岩本	FP	知花	0
0	木下	FP	三城	0
0	平山	FP	新城	0
0	山本	FP	前川	0
12	(0)	PT	(0)	19

（審・中新・古富）

○…前半、神森・松田の豪快な2本連続のロングシュートで先行。そのすぐ後、生駒・坂口のフリースローからの得点、浜野の速攻からの得点で5分に同点。神森はこの後攻撃にも勢いがつき、15分には7−2とリード。生駒はこの間4分から16分まで神森のディフェンスの良さも手伝って、ノーゴール。16分を過ぎるころから生駒も坂口、島添、吉川が得点し神森・松田にマンツーマンをするなど懸命に追撃をはかるが、神森の勢いは崩れず4点差で前半終了。

後半に入ってからも、神森の勢いは衰えず、10分までに13−6とリードを続ける。これに対し生駒はスピードあふれるプレーで追いあげるが、ノーマークシュートを3本続けてはずし、神森が点を取られても取り返すというゲームをし、7点のリードで初優勝を決めた。



▼女子1回戦（8月21日）

鶴城（九州・熊本）14（8−5／6−1）6 操南（中国・岡山）

○…試合開始から鶴城のペースで試合が進む。前半操南もよく食い下がったが、後半には突き放された。

住吉（中国・山口）15（8−2／7−3）5 香東（四国・香川）

○…前半、住吉はカットイン、ロングシュート、サイドシュート速攻等多彩な攻撃で8−2とリード。

後半に入り住吉にパスミス、オーバーステップとミスが続くが香東はこれらを得点に結びつけることができずに住吉に押し切られた。

伊奈（関東・茨城）19（8−3／11−6）9 菰野（東京・三重）

○…前半10分までは両チームとも互角の闘いで2−2。その後、伊奈のコンビプレー、ロングシュートが冴え出し伊奈の5点リードで前半終了。

後半はお互いに点の入れ合いになったが、走りにものを言わせた伊奈が速攻を決め、守りもかためて勝ちをものにした。

栄（関東・埼玉）20（7−2／13−5）7 大野（九州・長崎）

○…両チームともきびきびした動きで、スピーディな試合展開であったが、栄は立ち上がりの3点リードから波にのり、速攻による得点で点差をつけた試合であった。

岐陽（開催地）27（11−0／16−2）2 鳥取（北海道）

○…1、2年生だけのチーム、鳥取が地元岐陽に挑んだ試合であったが、スターティングメンバー全員が得点した岐陽に大差をつけられて敗れ去った。今後の鳥取に期待をしたい。

中部（東海・愛知）24（12−6／11−0）6 上杉山（東北・宮城）

○…上杉山の単調な攻撃を中部が速攻で得点に結びつけ大差をつけて圧勝した。

豊中第九（近畿・大阪）10（4−6／6−3）9 小杉（北信越・富山）

○…前半2分ポストプレーで先取得点をした豊中第九であったがその後、ペナルティースローを全てはずすなどでリズムを崩し、小杉に速攻などでリードを許してしまった。

後半の滑り出しは前半の勢いから小杉のペースで進められたが、10分を過ぎてから、豊中第九はジリジリと追い上げ大逆転で勝利をものにした。

寺井（北信越・石川）13（5−3／8−5）8 緑ケ丘（近畿・奈良）

○…攻守とも似かよったチーム同士のゲームであったが、ロングシュート、パワーの勝る寺井が緑ケ丘を得点でも上回った。緑ケ丘もよく健闘し、寺井に詰め寄ったが及ばなかった。

伊奈、健闘



▽同準々決勝（8月22日）

鶴城 17（9－5、8－8）13 伊奈

○…固さの見える両チームのスタートであったが、前半半ば頃から鶴城の動きが良くなり、カットから速攻と得点を積み重ねゲームを楽に進める。前半終了間ぎわに伊奈が2連続ゴールで鶴城を追いつめるが、4点差で終る。

後半、伊奈が調子をとりもどし、反撃を開始するが、鶴城は右と左のロングアタッカーのフリースローからの得点で、点を取られたら取り返すという展開で準決勝へ駒を進めた。

伊奈は懸命に頑張ったが、ノーマークシュート、ペナルティースローをはずしたのが悔やまれる。

岐陽 12（8－1、4－3）4 豊中第九

○…岐陽がツメの速いディフェンスからのボールカットを速攻等で着々と得点を積み重ねるのに対し、豊中第九はパスを思うようにつなぐことができないためにシュートまで持ち込めない試合展開。前半の差が試合を決めた。

住吉 14（9－5、5－7）12 栄

○…住吉はフォーメーション、ミドルシュート、ステップシュートと多彩な攻めを見せるチーム。一方栄はパスワークからのポストプレーのチームと両チームの持ち味が発揮された好ゲーム。

前半、住吉は4連続得点で好スタートを切りゲームの主導権を握り4点差をキープ。

後半は栄がボールをよくキープして激しい追い上げを見せて、残り3分で1点差に迫まるが、住吉が終了間ぎわにダメ押し点を決め逃げ切った。

寺井 7（3－4、4－2）6 中部

○…実力の接近した両チームの戦いとなり、お互い相手の様子を探り合う感じで前半を終了。

後半、1点差で開始されたが、お互いに堅い守りの中で、数少ないチャンスをものにした寺井が逆転し準決勝進出を決めた。

鶴城、パワー爆発

▽同準決勝（8月22日）

鶴城 26（15－3、11－6）9 岐陽

○…岐陽は地元の期待を意識してか動きが固く、鶴城の強烈な勢いを防ぐことができなかった。

前半、鶴城は、7分速攻で3－1にすると、フリースロー、フォーメーション等で18分には14－1と圧倒的な力を見せて試合を決定づけた。

後半に入っても、鶴城は攻め続け、サウスポーの裳川のロングシュート（裳川は後半のチーム得点11点のうち9得点）等で岐陽を突き放した。

【岐陽】		得
GK	本居	0
GK	寺岡	2
FP	川口	0
FP	福谷	0
FP	河内	0
FP	田村	1
FP	池田	6
FP	田口	0
FP	赤松	0
FP	藤村	0
FP	村上	0

【鶴城】		得
GK	江口	0
GK	吉田	0
FP	藤本	2
FP	山田	0
FP	山村	0
FP	緒方	0
FP	上村	3
FP	松本	0
FP	裳川	12
FP	福島	3
FP	鋤崎	6
FP	清村	0

（審・福田、松尾）

26（1）PT（1）9

住吉 8（6－5、2－2）7 寺井

【寺井】		得
GK	松原	0
GK	辻原	0
FP	宮本真	0
FP	谷口	0
FP	宮本弘	1
FP	丹後	1
FP	米田	5
FP	西田	0
FP	川本	0
FP	千代	0
FP	前口	0
FP	小西	0

【住吉】		得
GK	金田	0
GK	橋本	0
FP	藤井聖	1
FP	青木	1
FP	山本	1
FP	和山	1
FP	中倉	0
FP	藤井直	4
FP	大野	0
FP	原田	0
FP	渡辺	0
FP	石川	0

（審・山根、赤地）

8（2）PT（0）7

○…スタートから両者相譲らずの好ゲーム。前半10分では、住吉の藤井直、青木、寺井は米田の2得点で2－2。その後住吉が押しぎみに試合を進め15分にはペナルティースローなどで5－2とリードした。しかし寺井は丹後、米田、宮本の3連続得点で5－5と同点に追いつくが、前半終了間ぎわに住吉・和山のゴールで住吉がリードを奪う。

後半、寺井は米田のステップシュートで6－6。これに対し住吉は7分藤井直、8分藤井聖が得点8－6。寺井が9分に米田が返すが、この後終了までの10分間はお互いにラリーは続くが、得点なくタイムアップ。

▽同決勝（8月23日）

鶴城 19（8－5、11－7）12 住吉

【住吉】		得
GK	金田	0
GK	橋本	0
FP	藤本聖	0
FP	青木	1
FP	山本	2
FP	和山	0
FP	中倉	1
FP	藤井直	8
FP	大野	0
FP	原田	0
FP	渡辺	0
FP	石川	0

【鶴城】		得
GK	江口	0
GK	吉田	0
FP	藤本	1
FP	前田	0
FP	山村	0
FP	緒方	0
FP	上村	4
FP	松本	0
FP	裳川	5
FP	福島	0
FP	鋤崎	9
FP	清村	0

（審・岡村、中村）

19（2）PT（2）12

前半、住吉は鶴城のディフェンスに対し、フェイント、クロスプレーなどでペナルティースローを誘い出すが、このペナルティースローを鶴城・GK金田に全て阻止され5分まで無得点。

後半、鶴城は裳川、鋤崎のロングシュートなどで得点を重ねペースを守り住吉を突き放しにかかる。

住吉も藤井直の6連続得点で鶴城に迫るが、残り5分から鶴城は住吉・山本の12点目の得点の後、鋤崎の3連続得点で住吉を完全に振り切り優勝を決めた。

日本リーグに初の外人選手

大崎電気が韓国から補強

日本リーグは、9月20日東京で運営委員会を開き、女子1部所属の大崎電気（埼玉）から申請されていた「後期追加登録」について協議した。

日本リーグは、今年度から前期開幕前に登録された選手（18名以内）で、前、後期を通すことを申し合せ、追加選手（登録）は認めない方針だった。

ところが、大崎電気女子は、今夏7月末に、元韓国ナショナルの主力として活躍していた李相玉、李京姫両選手の入社を決定、埼玉東京協会などを通じ、日本協会追加登録を手つづきする一方、日本リーグに、初の外人選手登録願いを提出、後期からの出場が許可されるよう強い要望を示した。

日本リーグ運営委員会では、原則的には、申し合せどおり"追加"は認められない、との姿勢だったが、両選手が外国籍なこと、極めて高いレベルにあること、シーズン開幕当初から大崎電気が入社の動きを示していたこと、リーグ全般の知名度アップにつながることなどから、特例を設ける意見が支配的となり、両選手の追加登録を受けつけ、11月14日から始まる後期への出場を承認した。

日本リーグでは、これまで、日本の高校、大学を出た外国籍選手が活躍した例はあるが、いわゆる＜外人選手＞の登録は、男女を通じて初めてだけに、そのデビューが注目される。

また、運営委員会は、来年1月16日、東京・駒沢体育館で、初の男女オールスターズ・ゲームを行うことを決めた。

具体的な試合方法は、これから小委員会で煮つめられるが、男女とも「東西対抗」形式になるのは間ちがいない。

出場選手は、日本リーグ観戦者に投票用紙（男女7名連記）を配布、集計した上位7選手（GK1 FP6）は、＜ファン選出選手＞として決定、そのほか2チームの編成に必要な17名を監督推せんで決めることになる模様。

現在、国内のオールスターズゲームは、全日本学連の東西対抗があるだけで、ナショナルプレイヤーの大多数をかかえる日本リーグのオールスターズゲームには、華やかな個人技を中心とした好内容の期待がかけられる。

【日本リーグ運営委員会規程14・外国籍選手】参加チームは、3名以内に限り外国籍選手を登録できる。ただし、日本の中学校または高等学校を卒業した外国籍選手はこの数に含まれない。

抜群の技倆誇る李コンビ

□…大崎電気から登場する初の外人選手、李相玉と李京姫は、たいへんな"大物"である。

注意深い読者なら、両選手が近年の韓国女子躍進の原動力であったことをお気づきだろうが、一九七九年の第7回世界女子選手権（チェコ）で、李相玉は絶妙のパスワークでヨーロッパの専門家を驚ろかせ、李京姫は左腕からの豪快なシュートで活躍、国際レベルのプレイヤーとして名をあげていた。

日本が、七八年の世界選手権予選と七九年のモスクワ・オリンピック予選につづけて韓国に敗れたのは、この二人の技と力を防ぎ止められなかったから、といっても言が過ぎない。（注・李京姫は七八年の予選は不参加）。

ともに、忠州女商—忠州工専—韓国造幣公社とトップチームのユニホームを着つづけ、各日韓交流で、多くの日本選手、チームと対戦の経験がある。

そうした交流のたびに、両選手への評価は高まり、日本の専門家、愛好者の間にも、その名が広まっていた。特に、李相玉の来日は「日本の女子ハンドボールを変える」とまでいう人もいる。

大崎電気入社のきっかけは、同社々長で、IHF（国際ハンドボール連盟）理事でもある渡辺和美氏が、チェコやコンゴでのオリンピック予選における活躍を実際に見ており、昨年のオリンピック・ボイコット後、韓国ナショナル、韓国造幣公社のユニホームを脱いでしまった両選手の力倆を、このまま埋めさせてはもったいない、として熱心に来日を交渉したことにあった。

李相玉は25才、166cm、60kg、左右両利き、李京姫は23才、170cm、65kg、左腕。

なお、大崎電気関係者によれば両選手育ての親であり、元韓国女子ナショナルコーチ、李寿昶氏（40才）も、同社コーチングスタッフの一員として新加入が決まっている。

大崎電気女子の日本リーグ後期の日程は、11月14日、対北国銀行（志木市民体育館）、15日、対日立栃木（栃木市総合体育館）、28日、対日本ビクター（温泉津町民体育館）の試合。

来年の日程が内定

日本リーグは、このほど来年の「第7回日本リーグ」の日程を、前期が6月12日から7月11日まで後期が10月23日から11月7日までと決めた。

1部の競技法式は、男子が6チーム2回総当りだが、女子は、世界女子選手権の関連などから、18チーム1回総当りになりそうだ。

また、今年の1・2部入れ替え戦は、男女とも12月26、27日名古屋で行われる予定。

インター・ハイは鹿児島で

日本協会は、57年度の事業日程編成を急いでいるが、これまでに次の各大会のスケジュールが内定している。

▽第23回全日本実業団選手権、男子＝5月14〜16日または15〜17日・大阪、女子＝5月下旬・名古屋
▽第33回全日本高校選手権　8月1〜7日・鹿児島県隼人町
▽第25回全日本教職員選手権　8月8〜12日・群馬県富岡市
▽第57回国体　10月3〜8日・島根県

■東日本学生選手権大会■

男子 中大は初優勝
女子 日体大は三連覇

東日本学生選手権大会は、8月18日から22日の5日間、山梨県体育館で開催された。男子は昨年より9チーム多い30チーム、女子は7チームが参加し、最終日まで連日熱戦を繰り広げた。

男子は中大が日体大を破り初の選手権を獲得した。関東春季リーグ戦1位の筑波大は主力の負傷欠場もあり不本意の結果に終った。

女子は日体大が筑波大の猛追を受けながらも前半の貯金で逃げ切り三連覇を達成した。

〔男子〕

□予選リーグ

▽Aブロック

東海大（関東）26（15―9, 11―6）15 上智大（関東）
筑波大（関東）30（13―9, 17―4）13 上智大
筑波大 27（17―10, 10―12）22 東海大
（順位）①筑波大②東海大③上智大

▽Bブロック

金沢大（北信）16（7―10, 9―6）16 駒沢大（関東）
日体大（関東）38（19―4, 19―12）16 駒沢大
日体大 29（14―7, 15―7）14 金沢大
（順位）①日体大②金沢大③駒沢大

▽Cブロック

中央大（関東）28（12―10, 16―6）16 東京理大（関東）
茨城大（関東）20（10―8, 10―8）16 東北学院（東北）
中央大 34（13―9, 21―4）13 東北学院
茨城大 21（12―5, 9―6）11 東京理大
東京理大 20（11―7, 9―10）17 東北学院
中央大 34（17―8, 17―7）15 茨城大
（順位）①中央大②茨城大③東京理大④東北学院

▽Dブロック

順天大（関東）26（15―11, 11―9）20 岩手大（東北）
日本大（関東）28（17―4, 11―1）5 神奈川大（関東）
順天大 28（12―10, 16―7）17 神奈川大
日本大 39（22―6, 17―5）11 岩手大
岩手大 25（14―7, 11―4）11 神奈川大
日本大 36（15―11, 21―10）21 順天大
（順位）①日本大②順天大③岩手大④神奈川大

▽Eブロック

国士舘大（関東）30（17―6, 13―4）10 金沢工大（北信）
東京大（関東）28（17―7, 11―7）14 東京経大（関東）
国士舘大 28（15―6, 13―4）10 東京経大
金沢工大 19（12―7, 7―11）18 東京大
東京経大 19（8―5, 11―10）15 金沢工大
国士舘大 20（11―5, 9―5）10 東京大
（順位）①国士舘大②東京大③金沢工大④東京経大

▽Fブロック

法政大（関東）24（10―6, 14―10）16 東学芸大（関東）
函館大（北海道）30（14―8, 16―8）16 立教大（関東）
東学芸大 27（15―8, 12―6）14 立教大
法政大 25（12―12, 13―13）25 函館大
函館大 24（13―10, 11―10）20 東学芸大
法政大 35（15―3, 20―2）5 立教大
（順位）①法政大②函館大③東京芸大④立教大

▽Gブロック

横浜国大（関東）22（14―14, 8―7）21 仙台大（東北）
慶応大（関東）27（12―13, 15―8）21 明治大（関東）
慶応大 27（13―5, 14―2）7 仙台大
横浜国大 20（13―11, 7―6）17 明治大
仙台大 22（13―10, 9―9）19 明治大
慶応大 21（9―7, 12―12）19 横浜国大
（順位）①慶応大②横浜国大③仙台大④明治大

▽Hブロック

明星大（関東）27（17―6, 10―11）17 信州大（北信）
早稲田大（関東）29（14―6, 15―5）11 芝浦工大（関東）
早稲田大 34（20―7, 14―5）12 信州大
芝浦工大 21（12―9, 9―11）20 明星大
芝浦工大 28（15―8, 13―9）17 信州大
早稲田大 30（13―10, 17―7）17 明星大
（順位）①早稲田大②芝浦工大③明星大④信州大

筑波大姿消す

□決勝トーナメント

▽準々決勝

日体大 29（13―10, 16―3）13 慶応大
法政大 29（15―8, 14―7）15 早稲田大
日本大 28（17―12, 11―10）22 筑波大
中央大 28（15―7, 13―10）17 国士舘大

○…日体×慶応は実力差が素直に現われたが、法大×早大は予選リーグの不調を一気に挽回せんものと法大の素晴しい闘志が早大を圧倒した。日大×筑波は主力中島を今大会負傷で欠いた筑波に今一つ精彩無く、後半ずるずると日大のリズムに乗せられ連覇の夢が消えた。中大×国士は春季リーグの雪辱を機する中大が高さ、スピードパワーで横への変化、スピードで、対抗する国士を圧倒した。

決勝は日体と中大で

▽準決勝

日体大 26（15―8, 11―8）16 法政大

得	【日体】		【法政】	得
0	野口	GK	北原	0
0	石井	GK	山田	0
2	小林	FP	森本	2
2	細川	FP	直井	0
4	寺山	FP	畠田	0
1	金丸	FP	細井	1
6	三浦	FP	野口	5
5	佐々木	FP	山下	2
4	高村	FP	飯沼	0
0	望月	FP	吉永	0
0	中山	FP	高良茂	2
2	田中	FP	今井	4
26 (6)		PT		(0) 16

（審・三枝、槇田）

○…元気な法政の連取でスタート、15分までリズムのでない日体をリードし熱戦を繰り広げたが、前半終了間際日体が速攻で三浦、田中が決めてから後半ようやくリズムに乗り、安定したゲームを展開、逆に法政は森本、直井が後半けがで満足に働けず力つきた。

中央大 28（16―8 / 12―9）17 日本大

	【日大】	得	【中大】	得
GK	森田	0	柿崎	0
GK	宮田	0	木村	0
FP	藤永	0	田口	3
FP	大鐘	6	猪野	6
FP	倉田	1	藤井	2
FP	糸	2	尾上	5
FP	馬場	1	鈴木	2
FP	永井	0	塚田	3
FP	菅沼	3	中村	1
FP	宮沢	0	兼行	0
FP	田口	3	太田	0
FP	金原	1	実方	6

（審・市瀬、平井）

28（3） PT （5）17

○…立ち上がり好調に攻めた日大も15分過ぎの10分間シュートミスで無得点がひびきここで主導権は中大に移り田口、実方のロング、猪野の速攻等で快勝。

▽3位決定戦

日本大 32（14―9 / 18―8）17 法政大

	【法政】	得	【日大】	得
GK	北原	1	森田	0
GK	山田	0	宮田	0
FP	森本	2	藤永	6
FP	畠田	0	大鐘	5
FP	細井	4	倉田	3
FP	野口	3	糸	1
FP	山下	4	馬場	4
FP	飯沼	0	永井	5
FP	吉永	1	菅沼	4
FP	高良	1	宮沢	1
FP	今井	1	田口	1
FP	金山	0	金原	2

（審・上小沢、小池）

32（3） PT （3）17

○…体調を崩した森本と負傷欠場の直井の二枚落ちた法政は、昨日までの迫力が嘘のように消え全く元気なく、日大のなすがままのゲームになってしまった。

▽決勝

中央大初優勝

中央大 23（13―9 / 10―10）19 日体大

	【日体】	得	【中大】	得
GK	野口	0	柿崎	0
GK	石井	0	木村	0
FP	小林	0	田口	2
FP	細川	0	猪野	6
FP	安田	0	藤井	3
FP	寺山	4	尾上	4
FP	金丸	1	鈴木	0
FP	三浦	7	塚田	4
FP	佐々木	3	中村	0
FP	高村	4	兼行	0
FP	望月	0	太田	0
FP	田中	0	実方	4

（審・水越、三枝）

23（4） PT （2）19

○…互いに持味を生かしてスピーディなゲームで日体が先行していたが、前半終了30秒前に中大速攻で尾上が決めてタイ、後半も1点をあらそう好ゲームを展開していたが、中盤で日体は二本の速攻をミスし逆速攻でリードされてから攻撃が中大ディフェンスに近づきすぎてリズムが崩れ、ここを中大は良く走り初優勝をものにした。

〔女子〕

□予選リーグ

▽Aブロック

日女体大 30（18―6 / 12―10）16 東学芸大

筑波大 28（13―5 / 15―1）6 東学芸大

筑波大 26（17―5 / 9―3）8 日女体大

〔順位〕①筑波大②日女体大③東学芸大

▽Bブロック

日体大 32（18―3 / 14―1）4 東海大

東女体大 27（13―3 / 14―1）4 茨城大

日体大 28（15―4 / 13―2）6 茨城大

東女体大 32（17―3 / 15―3）6 東海大

茨城大 15（7―6 / 8―7）13 東海大

日体大 17（8―3 / 9―8）11 東女体大

〔順位〕①日体大②東女体大③茨城大④東海大

筑波、日体で決勝

□決勝トーナメント

▽準決勝

筑波大 21（9―7 / 12―6）13 東女体大

	【東女】	得	【筑波】	得
GK	上越	0	伏見	0
GK	大坪	0	久保	0
FP	小出	0	小林	4
FP	鈴木	3	吉沢	0
FP	増子	1	岩本	0
FP	内山	1	上水流	2
FP	堀	0	河原	1
FP	宮脇	3	山口	1
FP	田島	2	鈴木	13
FP	二村	3	山田	0
FP	佐藤	0	大地	0
FP	篠原	0	高柳	0

（審・上小沢、小池）

21（9） PT （1）13

○…出だしこそ東女のミドルシュートにリードを許したものの15分過ぎから本来のスピードが出はじめ、相手のミスを誘い確実に得点し快勝。

日体大 31（17―6 / 14―6）12 日女体大

	【日女】	得	【日体】	得
GK	藤野	0	高倉	0
GK	田中	0	藤井	0
FP	大島	2	石井	7
FP	石井	2	加藤	2
FP	大森	1	後藤	5
FP	下山	1	原田	2
FP	田鍋	1	天野	7
FP	島袋	0	伊藤	2
FP	金井	4	国府	0
FP	大舘	0	宇賀神	1
FP	安藤	1	石原	2
FP	雨宮	0	山本	3

（審・楡井、水越）

31（5） PT （2）12

○…スピードと総合力にまさる日体は、加藤、石井を軸に速攻、セットプレー共に冴え、日女体をよせつけなかった。

▽3位決定戦

東女体大 18（8―7 / 10―2）9 日女体大

	【日女】	得	【東女】	得
GK	藤野	0	上越	0
GK	田中	0	大坪	0
FP	大島	0	小出	0
FP	石井	2	鈴木	4
FP	大森	1	増子	5
FP	下山	0	内山	1
FP	田鍋	3	堀	0
FP	島袋	0	宮脇	4
FP	金井	2	田島	2
FP	大舘	0	二村	1
FP	安藤	1	佐藤	0
FP	雨宮	0	篠原	1

（審・藤田、手塚）

18（2） PT （2）9

○…東女はスタートから安定したリズムであったが、日女は相手の早いつめもあって20分間無得点と精彩なく前半で決してしまった。

▽決勝

日体大 16（7―8 / 9―4）12 筑波大

	【筑波】	得	【日体】	得
GK	伏見	0	高倉	0
GK	久保	0	藤井	0
FP	小林	1	石井	2
FP	吉沢	2	加藤	3
FP	岩本	1	後藤	2
FP	上水流	0	原田	1
FP	河原	4	天野	7
FP	山口	2	伊藤	0
FP	鈴木	2	国府	0
FP	山田	0	宇賀神	0
FP	池田	0	石原	0
FP	伊賀	0	山木	1

（審・市瀬、平井）

16（1） PT （0）12

○…日体は加藤のロング、セットプレーがさえ前半5点の大量リード、後半20分に2点差までつめられたがその後よく走って石井、後藤らで三連取し筑波の追撃をはばみ、三連覇を達成した。

テーマは「人間と機械」
OMRON

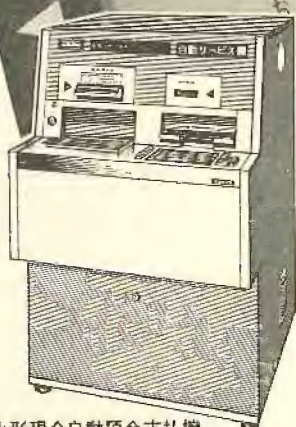


人間と機械との対話。

機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。

すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。

このように、オムロンは〃人間と機械との対話〃を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。



OMRON小形現金自動預金支払機

預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。



OMRON電子レジスタ591-IRC

価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、さらにレシートにも同じカナ文字で印字。明瞭で気もちよい会計が行なえます。



立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

■強化部会報告■

活気あふれる議論を展開

日本協会強化部の今年度総会は9月19日午後、東京渋谷の岸記念体育会館で17名の部員が出席して行われた。

総会前日の世界選手権アジア予選（別掲）で、日本が7回連続して代表権を得たとあって、会議は明かるい光がさしこみ、活気のある議論が3時間半にわたってつづいた。

注目の世界女子選手権アジア予選については、鈴木義男女子委員長などから、日本での開催が強く要望され、池田鉄哉全日本女子監督は、その期日を「来年3月」と指定した。

これに対し、陪席の荒川清美日本協会専務理事は、できるだけ女子コーチングスタッフの意向にそいたい、としながらも、「日本のほか、韓国、中国、台湾それに朝鮮民主々義人民共和国らがエントリーした場合一堂に会せるのは日本だけ」とし日本開催の自信を示した。

また、各委員から、競技法式はリーグ戦を望む声が圧倒的で、世界ジュニア選手権予選で採用されたようなトーナメント法式には反対の意見をまとめあげた。

これに関連して、一部の部員から、男子のアジア予選のレフェリーを参加各国の滞同制にしたことに対し、不満の声があげられた。

荒川専務理事は「経費的な面、アジアのレフェリーを育成するという方針」から、今後も、滞同制の実施をにおわしたが、各国間の思惑がからんで、必ずしも「公平」が保たれない、という意見が強かった。

審判セクションの意向が、この場では分からぬため〝結論〟は出なかったが、同セクションが、日本協会と同方向の考えであれば、強化サイドと正面衝突することになる。

全日本、スペイン国際に参加

今後の強化活動では、全日本男子は、世界選手権（来年2月23日～3月7日、西ドイツ）の前哨戦として、来年1月、スペイン国際トーナメントへ出場することが明きらかにされた。

また、今冬12月の第8回フランス国際トーナメントは、当初の予定より参加国が減ったが、すでに日本協会がフランス協会に対し、代表チームの派遣を確約していることなどから予定どおり、参加となった。

メンバーについては、全日本男子監督を兼ねる竹野奉昭強化部長から、世界選手権とスペイン国際は同一メンバーで、フランス国際には別チームを編成する方針が示され、了承をうけた。

フランス国際参加選手のなかから、世界選手権・スペイン国際に出場する者も、もちろんいる。

全日本女子は、さしあたり、すべての強化ターゲットを、来春の世界選手権アジア予選に据えることで異議なかった。

9月22日からのヨーロッパ遠征メンバーについては、本誌前号既報の16名と、木下智子選手(立石)の特別参加が承認された。

また、鈴木女子委員長は、アジア予選前の総仕あげとして、来年2月末に、今年度第2次のヨーロッパ遠征の計画が示され、今後、具体案を立てることとなった。

全日本男子ジュニアは、後掲のように22名の世界ジュニア選手権候補選手(56年度全日本ジュニア)のリストが提出され、承認をうけた。

担当の木野実コーチによれば、10月中旬までに、このなかから16名の代表選手を選び、11月の日本協会全国理事会へ提案する。

全日本女子ジュニアは、2年後の第4回世界女子ジュニア（詳細未定）に向けての始動が確認され鈴木女子委員長は、現在、候補選手をノミネート中であるとした。

なお、ジュニアは男女とも、来年7月、イタリアで行われる第10回インテラムニカップへ参加することが確認された。

樫塚コーチ、西独留学へ

このほか、人事関係では、日本体協登録コーチの一部異動が次のように行われた。

総括コーチに伊藤宏幸、トレーニングドクター（主任）に平岡秀雄、強化コーチに緒方嗣雄の各氏を新任。

12月の世界男子ジュニア選手権の団長は、前日の日本協会全国理事会で、清水正理事が選任されたと報告があった。

来年度事業では、11月のアジア大会（男子のみ）の初参加が、大きな話題となり、強化部としては「ジャパンカップ」の継続も、日本協会へ要望することとなった。

来夏来日を予定されるチェコのクラブチームについては、今後のなりゆきを見守るが、男女とも「スラビア・プラハＩＰＳ」との対戦（各1試合）を望む声が強かった。

噂されるスウェーデンナショナル（男子）の来日については、議題とならず、第3回日中交流や第3回アジア選手権、第9回世界学生選手権についても、情報がなく未審議だった。

雑件では、日本体協海外研修コーチとして、樫塚正一コーチの西ドイツ留学が内定したと報告された。この制度の適用をうけるのは早川清孝コーチにつづいて2人目。留学期間は1年の予定である。

全日本男子ジュニア決まる

強化部総会で明きらかにされた「昭和56年度全日本男子ジュニア（第3回世界男子ジュニア選手権候補）」は次の通り。

▽GK　矢内浩（国士舘大）、蓑輪正雄（名城大）、小野司（大阪体大）。

▽FP　中島昭博、武井一浩、児玉俊二（以上筑波大）、松岡寛、東江正作（以上大崎電気）、寺山敦雄、佐々木功（以上日体大）、田口隆、内藤裕治（以上日大）、玉村健次、菅沼誠（以上大阪体大）、中川英二、庄司寧（以上中大）、小山裕司（早大）、荷川取義浩（中部工大）、宮下和広（同志社大）、田口勝利（大同特殊鋼）、山口克博（日鉄建材）、立木浩二（名城大）。

各地学生秋季リーグ戦

関東学生秋季リーグ戦

（9月20日～10月24日）

▼男子1部

国士舘大 27（14-10, 13-9）19 日大
中央大 34（17-8, 17-9）17 慶大
日体大 29（15-8, 14-8）16 早大
法大 27（15-12, 12-12）24 筑波大
中央大 26（12-11, 14-8）19 国士舘大
日大 28（12-12, 16-8）20 慶大
日体大 31（15-11, 16-13）24 法大
早大 25（12-5, 13-6）11 筑波大
筑波大 29（15-13, 14-8）21 慶大
日体大 28（16-10, 12-13）23 国士舘大
中央大 24（13-9, 11-6）15 法大
日大 25（13-9, 12-9）18 早大
日大 24（13-7, 11-8）15 法大
中央大 28（16-9, 12-13）22 早大
日体大 31（16-12, 15-8）20 慶大
国士舘大 23（11-13, 12-9）22 筑波大
慶大 17（7-7, 10-10）17 早大
国士舘大 21（9-7, 12-12）19 法大
日大 30（17-11, 13-12）23 筑波大
中央大 26（12-11, 14-15）26 日体大
法大 27（12-10, 15-6）16 慶大
国士舘大 24（12-10, 12-10）20 早大
日体大 21（11-10, 10-7）17 日大
中央大 30（14-11, 16-13）24 筑波大
法大 28（14-10, 14-13）23 早大
慶大 27（14-11, 13-9）20 国士舘大
中央大 23（10-10, 13-7）17 日大
筑波大 26（12-11, 14-12）23 日体大

	中大	日体大	日大	国士大	法大	筑波大	早大	慶大	勝敗	順位
中大	＼	△	○	○	○	○	○	○	6勝1分	①
日体大	△	＼	○	○	○	×	○	○	5勝1敗1分	②
日大	×	×	＼	×	○	○	○	○	4勝3敗	③
国士大	×	×	○	＼	○	○	○	×	4勝3敗	④
法大	×	×	×	×	＼	○	○	○	3勝4敗	⑤
筑波大	×	○	×	×	×	＼	×	○	2勝5敗	⑥
早大	×	×	×	×	×	○	＼	△	1勝5敗1分	⑦
慶大	×	×	×	○	×	×	△	＼	1勝5敗1分	⑧

○優秀選手
GK 柿崎等（中央大）
FP 田口長雄（中央大）
猪野栄一（中央大）
藤井泉（中央大）
寺山敦雄（日体大）
三浦力（日体大）
藤永一郎（日大）

○得点王
野口大（法政大）63点

▼女子1部

筑波大 33（17-5, 16-4）9 千葉明徳短大
東女体大 40（20-8, 20-3）11 東学大
東女体大 30（16-9, 14-4）13 東学大
日体大 43（24-5, 19-1）6 千葉明徳短大
日女体大 28（14-6, 14-4）10 東学大
筑波大 31（13-6, 18-1）7 千葉明徳短大
日体大 43（21-6, 22-3）9 千葉明徳短大
筑波大 32（15-10, 17-4）14 東学大
筑波大 29（14-4, 15-6）10 東学大
日体大 31（15-5, 16-10）15 日女体大
東女体大 34（22-2, 12-5）7 千葉明徳短大
日体大 27（10-8, 17-9）17 日女体大
東女体大 30（15-2, 15-3）5 千葉明徳短大
筑波大 22（8-7, 14-4）11 東女体大
日女体大 21（13-4, 8-4）8 東学大
日体大 21（9-11, 12-8）19 東女体大
筑波大 18（12-5, 6-8）13 日女体大
日体大 19（11-6, 8-3）9 東女体大
日体大 34（17-2, 17-3）5 東学大
日女体大 21（9-8, 12-3）11 千葉明徳短大
筑波大 21（8-9, 13-6）15 東女体大
日体大 25（10-4, 15-5）9 東学大
日女体大 23（14-4, 9-3）7 千葉明徳短大
筑波大 21（10-8, 11-6）14 東女体大
東学大 21（9-6, 12-9）15 千葉明徳短大
東女体大 20（13-8, 7-5）13 日女体大
日体大 18（10-9, 8-3）12 筑波大
千葉明徳短大 17（12-7, 5-9）16 東学大
東女体大 20（13-6, 7-9）15 日女体大
筑波大 18（8-8, 10-9）17 日体大

	日体大	筑波大	東女体大	日女体大	東学大	千葉明徳	勝敗	順位
日体大	＼	○×	○○	○○	○○	○○	9勝1敗	①
筑波大	×○	＼	○○	○○	○○	○○	9勝1敗	②
東女体大	××	××	＼	○○	○○	○○	6勝4敗	③
日女体大	××	××	××	＼	○○	○○	4勝6敗	④
東学大	××	××	××	××	＼	○×	1勝9敗	⑤
千葉明徳	××	××	××	××	×○	＼	1勝9敗	⑥

○優秀選手
GK 高倉史子（日体大）
FP 石井幸（日体大）
後藤世理子（日体大）
加藤典代（日体大）
小林玲子（筑波大）
上水流伸子（筑波大）
河原敦子（筑波大）

○得点王
鈴木智恵子（東女体大）80点

▼男子2部

駒大 34（17-12, 17-11）23 横国大
順大 32（16-11, 16-11）22 明大
東海大 40（19-5, 21-4）9 立大

東大 28（15－14, 13－9）23 横国大
駒大 29（10－10, 19－6）16 立大
東海大 38（19－9, 19－7）16 横国大
駒大 36（20－14, 16－14）28 明大
東大 28（14－14, 14－13）27 順大
順大 27（9－8, 18－3）11 立大
東海大 33（18－8, 15－14）22 東大
順大 37（17－19, 20－17）36 横国大
明大 27（15－11, 12－13）24 横国大
駒大 35（14－11, 21－10）21 東大
東大 22（11－6, 11－7）13 立大
東海大 35（15－13, 20－12）25 明大
東海大 36（16－8, 20－13）21 順大
東大 31（18－10, 13－12）22 明大
茨城大 29（17－5, 12－6）11 立大
茨城大 32（14－12, 18－8）20 横国大
茨城大 25（13－9, 12－6）15 東大
駒大 23（13－7, 10－13）20 順大
明大 29（15－11, 14－8）19 立大
茨城大 22（9－9, 13－11）20 明大
茨城大 22（10－11, 12－11）22 順大
横国大 32（18－11, 14－10）21 立大
駒大 31（15－9, 16－14）23 茨城大
東海大 27（13－10, 14－8）18 茨城大
東海大 12（試合放棄）0 駒大

〔順位〕①東海大7勝②駒大6勝1敗③茨城大4勝2敗1分④東大4勝3敗⑤3勝3敗1分⑥2勝5敗⑦1勝6敗⑧7敗

○得点王 佐藤慎二（横国大）69点

▼女子2部

東海大 31（13－5, 18－2）7 横国大
都留文大 24（11－3, 13－3）6 学習院短大
文教大 14（8－2, 6－0）2 駒大
横国大 18（8－0, 10－5）5 創価大
文教大 14（9－3, 5－4）7 千葉大
東海大 43（22－3, 21－3）6 創価大
都留文大 20（7－4, 13－1）5 横国大
茨城大 36（24－0, 12－1）1 駒大
東海大 31（15－3, 16－2）5 学習院短大
東海大 16（8－6, 8－5）11 都留文大
茨城大 23（8－5, 15－6）11 文教大
学習院短大 15（8－2, 7－11）13 創価大
横国大 25（10－2, 15－3）5 学習院短大
千葉大 17（6－6, 11－4）10 駒大
茨城大 33（16－1, 17－1）2 千葉大

▽順位決定戦

駒大 16（10－3, 6－5）8 学習院短大
横国大 16（9－7, 7－8）15 千葉大
都留文大 15（9－2, 6－7）9 文教大
茨城大 20（9－7, 11－3）10 東海大

〔順位〕①茨城大②東海大③都留文大④文教大⑤横国大⑥千葉大⑦駒大⑧学習院短大⑨創価大

▼男子3部

明星大 21（8－12, 13－6）18 専修大
上智大 26（15－14, 11－10）24 芝工大
専修大 21（9－10, 12－7）17 青学大
東理大 23（11－10, 12－10）20 横商大
専修大 26（17－11, 9－10）21 芝工大
明星大 25（15－10, 10－8）18 横商大
上智大 27（16－6, 11－7）13 東理大
青学大 27（13－10, 14－8）18 東理大
東学大 33（19－12, 14－7）19 横商大
明星大 20（10－7, 10－11）18 上智大
東学大 25（13－9, 12－10）19 専修大
青学大 28（17－14, 11－8）22 横商大
東学大 32（20－12, 12－10）22 芝工大
上智大 33（17－14, 16－11）25 青学大
東理大 27（15－14, 12－8）22 芝工大
東学大 30（17－7, 13－4）11 東理大
横商大 29（13－12, 16－14）26 専修大
明星大 29（14－12, 15－7）19 青学大
青学大 24（15－7, 9－16）23 芝工大
横商大 32（16－15, 16－15）30 上智大
東学大 27（13－8, 14－9）17 明星大
東学大 27（18－6, 9－6）12 上智大
横商大 36（17－13, 19－6）19 芝工大
専修大 25（12－10, 13－7）17 東理大
東学大 37（21－10, 16－5）15 青学大
明星大 21（15－9, 6－7）16 東理大
上智大 26（15－9, 11－10）19 専修大
芝工大 24（12－8, 12－8）16 明星大

〔順位〕①東京学芸大②明星大③上智大④専修大⑤横浜商科大⑥青山学院大⑦東京理科大⑧芝浦工大

○得点王 山田啓太（東学大）72点

▼男子4部

一橋大 21（9－8, 12－7）15 創価大
神奈川大 21（14－10, 7－9）19 防衛大
東経大 24（15－6, 9－7）13 横市大
防衛大 23（11－10, 12－12）22 横市大
創価大 14（6－8, 8－4）12 千葉工大
埼玉大 30（12－13, 18－14）27 防衛大
千葉工大 16（11－3, 5－11）14 横市大
神奈川大 21（12－10, 9－8）18 一橋大
創価大 23（14－8, 9－9）17 東経大
神奈川大 22（12－12, 10－8）20 創価大
一橋大 14（5－5, 9－9）14 東経大
防衛大 13（7－4, 6－7）11 千葉工大
東経大 20（13－7, 7－5）12 埼玉大
防衛大 28（13－13, 15－8）21 一橋大
東経大 12（7－7, 5－5）12 千葉工大
神奈川大 28（15－8, 13－12）20 横市大
防衛大 20（13－7, 7－11）18 東経大
千葉工大 15（7－9, 8－5）14 埼玉大
神奈川大 21（11－10, 10－5）15 千葉工大
埼玉大 25（15－7, 10－7）14 横市大

防衛大 26（14－8, 12－8）16 創価大
神奈川大 36（25－6, 11－19）25 東経大
千葉工大 22（9－9, 13－13）22 一橋大
創価大 31（18－7, 13－14）21 横市大
神奈川大 27（11－12, 16－10）22 埼玉大
一橋大 23（11－9, 12－11）20 埼玉大
一橋大 19（8－11, 11－7）18 横市大
創価大 19（9－10, 10－7）17 埼玉大

（順位）①神奈川大②防衛大③創価大④一橋大⑤東京経済大⑥千葉工業大⑦埼玉大⑧横浜市立大

○得点王
塚川 強（神奈川大）72点

▼男子5部

文教大 21（13－12, 9－7）19 東農大
武蔵大 25（12－11, 13－14）25 大東文化
東洋大 21（11－5, 10－5）10 関東学院
東農大 30（14－10, 16－14）24 東洋大
武蔵大 29（10－8, 19－2）10 武蔵工大
文教大 23（11－8, 12－3）11 武蔵工大
大東文化大 27（15－11, 12－14）25 東農大
武蔵大 26（13－12, 13－3）15 関東学院
東農大 26（16－8, 10－10）18 武蔵工大
大東文化 39（27－12, 12－10）22 東工大
大東文化 36（17－9, 19－8）17 東洋大
武蔵大 23（12－11, 11－12）23 文教大
文教大 26（15－12, 11－8）20 関東学院
武蔵工大 16（7－5, 9－7）12 東工大
武蔵大 21（9－7, 12－7）14 東洋大
文教大 20（8－7, 12－8）15 東工大
武蔵工大 15（7－7, 8－7）14 関東学院
東農大 33（17－7, 16－5）12 東工大
大東文化 27（16－9, 11－8）17 関東学院
東農大 25（12－12, 13－10）22 武蔵大
東工大 20（10－10, 10－8）18 関東学院
東農大 25（12－12, 13－10）22 関東学院
大東文化 32（17－8, 15－7）15 武蔵工大
文教大 26（13－8, 13－9）17 東洋大
東工大 16（6－7, 10－9）16 武蔵大
武蔵工大 22（13－7, 9－13）20 東洋大
東工大 18（8－5, 10－9）14 東洋大

（順位）①文教大②大東文化大③東京農大④武蔵大⑤武蔵工大⑥東京工大⑦東洋大⑧関東学院大

○得点王
坂下善治（東京農大）63点

▼男子6部

日工大 25（15－13, 10－9）22 拓大
和光大 21（15－6, 6－9）15 明学大
都留文大 28（14－4, 14－8）12 成蹊大
千葉大 31（15－13, 16－10）23 日工大
千葉大 22（8－5, 14－6）11 都留文大
成蹊大（不戦勝）拓大
都留文大 23（13－10, 10－8）18 東外大
独協大 18（6－12, 12－4）16 農工大
日工大 30（14－8, 16－6）14 亜大
独協大 31（16－6, 15－7）13 明学大
都立大 36（19－11, 17－10）21 工芸大
千葉大（不戦勝）拓大
成蹊大 23（13－11, 10－6）17 東外大
千葉大 26（17－8, 9－6）14 成蹊大
東外大 31（19－12, 12－4）16 亜大
玉川大 21（11－9, 10－4）13 明学大
都留文大 23（8－6, 15－5）11 拓大
千葉大 33（13－6, 20－1）7 亜大
都立大 29（12－15, 17－14）29 和光大
都留文大 27（14－6, 13－7）13 亜大
和光大 36（21－6, 15－6）12 工芸大
都立大 22（10－6, 12－8）14 明学大
独協大 19（14－3, 5－8）11 玉川大
都立大（不戦勝）農工大
日工大 25（12－12, 13－9）21 東外大
和光大 22（12－4, 10－10）14 農工大
玉川大 39（21－9, 18－9）18 工芸大
拓大 25（14－7, 11－11）18 東外大
亜大 24（10－11, 14－12）23 成蹊大
玉川大 22（15－7, 7－7）14 農工大
都留文大 24（14－12, 10－8）20 日工大
都立大 18（5－11, 13－4）15 玉川大
独協大（不戦勝）工芸大
亜大 27（14－6, 13－6）12 拓大
日工大 36（16－13, 20－5）18 成蹊大
千葉大 16（6－7, 10－6）13 東外大
和光大 20（13－8, 7－10）18 玉川大
独協大 25（9－12, 16－12）24 都立大
明学大 35（18－7, 17－6）13 工芸大
明学大 28（16－6, 12－2）8 農工大
独協大 25（11－9, 14－4）13 和光大

▽順位決定戦

千葉大 19（8－8, 11－7）15 独協大
都留文大（不戦勝）都立大
和光大（不戦勝）日工大
玉川大 17（0－0, 0－0）17 成蹊大
延長 2－0
明学大 20（6－11, 14－8）19 亜大
東外大（不戦勝）農工大
拓大（不戦勝）工芸大

（順位）①千葉大②独協大③都留文化大④都立大⑤和光大⑥日本工大⑦玉川大⑧成蹊大⑨明治学院大⑩亜細亜大⑪東京外大⑫東京農工大⑬拓殖大⑭東京工芸大

○得点王
三浦登志雄（都立大）59点

▼入れ替え戦

＜男子＞

芝工大（3部8位）32（18－8, 14－4）12 防衛大（4部2位）
※芝工大は3部残留

明星大（3部2位）18（12－8, 6－9）17 立教大（2部8位）
※明星大は2部昇格

慶応大（1部8位）21（12－7, 9－10）17 東海大（2部1位）
※慶応大1部残留

独協大（6部2位）26（11－11, 15－8）19 関学大（5部8位）
※独協大は5部昇格

大東大（5部2位）35（17－12, 18－10）22 横市大（4部8位）
※大東大は4部昇格

＜女子＞

茨城大（2部1位）15（10－5, 5－8）13 千葉明徳（1部6位）
※茨城大は1部昇格

スーパー■シビック



1500・3ドアCE

'80年代、再びシビックから始まります。 7年の歳月を刻み、世界89ヵ国200万台*の実績をたずさえて、シビックはいま飛躍的な変貌をとげました。'80年代に世界が求める車とは何か。「実質」と「感性」の両面から、これを徹底して追求した結果、あのシビックを遙かに凌いだ見事に高質の車が誕生したのです。■リッター18km（1500CE 型式E-SR 10モード走行・運輸省審査値）28km（1500CE 型式E-SR、CF(5速車) E-ST 60km/h・定地走行テスト値）の低燃費。■経済性を高めながら、スポーツカーを想わせる強烈な動力性能。■スリムなボディに驚くほど広い室内。■高級車なみの静けさと高いクォリティ。■しかもこれらを従来同様の低価格で実現したこと。先進の思想をしっかりと受け継ぎながら、再び時代を画する素晴らしい車に生まれ変わったのです。車づくりに新しい流れ（トレンド）をつくるニュートレンドカー、スーパー・シビック。いま世界の街へ。

*昭和54年8月現在 総生産台数(自工会調べ)

先んじる思想。ニュートレンドカー

CIVIC

ムリな運転はやめてガソリンを大切に。
シートベルトを締めましょう。

HONDA®

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL.鈴鹿0593:78―1212〈代表〉

○尚、以下の大学は自動的に昇格しました。

▽東京学芸大（3部1位）2部へ
▽神奈川大（4部1位）3部へ
▽文教大（5部1位）4部へ
▽千葉大（6部1位）5部へ

北九州学生秋季リーグ戦

▽男子1部

九産大 26（12—11、14—9）20 福教大
九産大 28（19—14、9—13）27 久工大
福岡大 23（12—8、11—5）13 九産大
九産大 32（16—13、16—8）21 西南大
福教大 27（13—14、14—11）25 久工大
福教大 30（16—10、14—12）22 福岡大
福教大 39（20—5、19—7）12 西南大
久工大 28（19—11、9—11）22 福岡大
久工大 46（22—12、24—6）18 西南大
福岡大 24（13—11、11—8）19 西南大

〔順位〕①九州産業大②福岡教育大③久留米工業大④福岡大⑤西南大

○最優秀選手
楢原隆雄（久留米工大）

○ベストセブン
GK 大庭康弘（九州産大）
FP 細山田成寿（九州産大）
吉野内俊生（九州産大）
林田靖也（福岡教育大）
大城博一（久留米工大）
柏原卓幸（福岡大）
島村浩信（福岡大）

○得点王
楢原隆雄（久留米工大）
林田靖也（福岡教育大）

▽男子2部

長崎大 25—21 九州大
長崎大 32—15 九州工大
長崎大 19—14 西日本工大
長崎大 24—15 九州共立大
九州大 30—20 九州工大
九州大 25—15 西日本工大
九州大 12—0 九州共立大
九州工大 21—19 西日本工大
九州工大 29—25 九州共立大
西日本工大 29—26 九州共立大

〔順位〕①長崎大②九州大③九州工業大④西日本工業大⑤九州共立大

○優秀選手
中島公俊（長崎大）

○得点王
小野政博（長崎大）

▽男子3部

東和大 18—16 東海大
東和大 26—13 福岡工大
東海大 21—16 福岡工大

〔順位〕①東和大②東海大③福岡工業大

▽女子

福教大 25（13—9、12—6）15 福岡大
福教大 32（15—12、17—5）17 九州女大
福教大 56（29—0、27—1）1 長崎大
福岡大 30（16—7、14—7）14 九州女大
福岡大 41（19—0、22—2）2 長崎大
九州女大 39（17—3、22—1）4 長崎大

〔順位〕①福岡教育大②福岡大③九州女子短大④長崎大

○最優秀選手
松田弘子（福岡教育大）

○優秀選手
井上可知子（福岡教育大）
谷口聡子（福岡大）
久保田郁子（九州女短大）

○得点王
松田弘子（福岡教育大）

第19回（女子第6回）全九州学生選手権

○…男子第19回、女子第6回全九州学生選手権大会は、10月25、26日の2日間、福岡大学第2記念会堂と東海大学福岡教養部休育館で開催された。

＜男子＞

▽1回戦

九州産大 20—18 熊本大
宮崎大 30—10 九州共立大
熊本商大 15—11 西日本工大

▽2回戦

福岡大 26—22 九州産大
長崎大 26—17 東和大
鹿児島大 34—7 福岡工大
宮崎大 19—14 九州大
大分大 25—15 東海大
西南学院大 15—13 熊本工大
九州工大 26—14 長崎総科大
久留米工大 27—13 熊本商大

▽準々決勝

福岡大 31（16—4、15—5）9 長崎大
鹿児島大 26（13—8、13—10）18 宮崎大
西南学院大 19（11—7、8—9）16 大分大
久留米工大 40（22—5、18—10）15 九州工大

▽準決勝

福岡大 31（16—9、15—8）17 鹿児島大
久留米工大 29（18—12、11—10）22 西南学院大

▽3位決定戦

鹿児島大 23（12—9、11—7）16 西南学院大

▽決勝

福岡大 24（13—12、11—11）23 久留米工大

得	【福大】		【久大】	得
0	小山	GK	角	0
0	田中	GK		
0	加賀	FP	檜原	14
8	島村	FP	坂本	0
0	山本	FP	都	0
1	菅原	FP	大城	0
0	永井	FP	川久保	5
5	柏原	FP	宮里	0
6	広瀬	FP	羽地	0
2	平田	FP	林田	2
2	牟田	FP	二川	2
0	山本	FP	楠本	0
24	（3）	PT	（7）	23

（審・南濤・得丸）

○…福岡大は柏原、久留米工大は楢原の両エースを中心にゲーム展開がなされ、決勝戦にふさわしい好ゲームで前半を11対11で折り返す。

後半に入っても一進一退のゲームであったが、サイド、速攻と島村（福岡大）が得点し、24対23で福岡大が逃げ切った。

久留米工大・楢原の14得点が光った試合だった。

＜女子＞

▽1回戦

福岡教育大 28—4 宮崎大

▽準決勝

福岡教育大 24（16—9、8—3）12 福岡大
九州女短大 36（16—0、20—1）1 長崎大

▽決勝

九州女短大 17（9—8、8—8）16 福岡教育大

得	【九短】		【福教】	得
0	吉元	GK	富田	0
0	浴	GK		
3	久保	FP	吉田	0
10	久保田	FP	佐伯	0
3	小野	FP	白石	8
0	川口	FP	大塚	4
0	北	FP	額田	3
1	松永	FP	磯部	1
0	吉田	FP		
0	山口	FP		
0	安井	FP		
0	神坂	FP		
17	（4）	PT	（6）	16

（審・中川・東迎）

○…前半決勝戦らしく白熱した好試合が続き、8対8で終了した後半、九州女短大は2番久保を中心によくボールが回り始めた。一方福岡教育大は主力選手が2名欠け7名と少人数で戦ったが、攻撃に乱れが生じ、終了数分前に九州女短大は劇的な逆転優勝を遂げた。

プレス・ルーム <33>

杉　山　茂
——(NHK運動部)—

■TiB48が来日するけれど…

西ドイツの名門スポーツクラブ「ツルゲンマインデ・イン・ベルリン48」（TiB48）の男女ハンドボールチームが来日する。

その数二万といわれる西ドイツのスポーツクラブの中でも、創立が一八四八年というのは、このクラブ以外に、あと一つ二つあるかないか、だ。

たいへんな名門ということができる。

ハンドボールチームも、一九二〇年代から活動しており、私の記憶では三〇年代にドイツ・チャンピオンになっている。もちろん当時は11人制である。

そうした伝統に比べて、現在の力は、国内でもCランクあるいはDランク。このクラブよりもベルリン地域で上位にあるBSC・レーベルゲが、5年前に来日して男女とも、日本勢にまるで歯が立たなかったのだから、勝負という点では、問題になるまい。

お手本としたいのは、強い弱いといったことより、クラブ員が、ハンドボールを通じて、生活にうるおいを持たせ、会費を積みたてては〈外国遠征〉しようとする姿勢だ。

旅行のあいまにハンドボールができたら、ということで、どこに行くにもボールとユニホームは、洗面道具と同じように〝必需品〟である。

いつも思うことだが、こんなクラブが、日本にも沢山欲しい。

ところで、日本協会は、どこでどう混線したのか、TiB48を大チームと感ちがいして、主に東北地域へ、かなり大々的に売りこんだ。

いわゆる一般クラブの多い同地域は、喜んで「国際試合」の看板を掲げ、準備を進めていた。しかし、9月上旬、日本協会は、TiB48から届いた来日者リストをみて、男女ともあまりにも中高年令者が多く、男子などは8人しか選手が来ないとあって「有料の公開試合はムリ」と判断、各地に大会の中止を通告する一方、TiB48には「来日しないように…」という乱暴な申し出をした。

私の知る限りでは、東北各協会は、日本協会執行部不信任の一歩手前まで行ったようだし、TiB48側は、信じられない表情のまま日本へ向けて旅立った。

混乱の原因は、一にも二にも、日本協会の「国際感覚」「外交感覚」の貧しさにある。

ちょっと調べれば、TiB48の〝実力〟は分かるハズ出し、それなりの対応ができたハズなのだ。「西ドイツ」と聞いただけで飛びついた無定見さは、ひどすぎる。

幸い、日体大や東女体大、自衛隊連盟、日立栃木らが「友好試合」を申し出てくれ、日独間のこれまでの友好にキズがつくのは、まぬがれたようだが、地方協会やTiB48の受けたショックは、当分治るまい。

■古くなった優勝旗と優勝杯

いつも気にしていながら、いざその時になると忘れてしまい、コトが通りすぎてしまうという例がよくある。

私にとって「全日本総合選手権の優勝旗と優勝杯の話」が、それだ。

よほどの大チームでない限り、これらの賞品を手にしないため、見落されているが、両方とも、いかにも古びているし、おまけに、優勝旗のほうは「送球時代」の遺物なのである。

「全日本」「国内チャンピオン」の重味からすれば、その古さこそ伝統というかもしれないが、日本協会のずさんさで、受け継がれているだけ、と知ったら、受賞チームのありがたみも半減するのではなかろうか。

30回大会（昭和53年）を期して新調する話が、まとまっていたハズだが、忘れられて過ぎた。

財団法人にもなったことだ。今さら「日本送球協会」でもあるまいし、初期の優勝チームの栄光は「短冊」をそのまま残して、付けかえれば、歴史を引き継げる。

それに、男子に優勝旗、女子に優勝杯というアンバランスも、もう正されていい。

去年、テレビで表彰式を見ていたジャスコの関係者は、男子に比べて、女子の表彰が貧弱なのに首をかしげた、という。

国内チャンピオンチームが、男女というだけで「差」があっていいハズがない。

両者に日本協会からの優勝旗なり優勝杯が渡されるべきなのだがほとんどの人が、関心を払わない困ったこと、というより、悲しいこと、腹立たしいことだ。

きついいいかたをすれば、協会の役員というのは、つねにチームやプレイヤーに気配りしていればいいのだ。

自分の立ち場や、役職の肩書きにこだわり、会議屋でいるのが役員だと思うのは、間違いである。

優勝旗の話が、とんだ方向へそれていきそうだが、最近、日本協会は、いったいなにをやっているのだ、という声を聞く。9月の世界選手権予選で男子代表が敗れでもしていようもなら〝騒動必至〟などという噂さえあった。

まあ、それはともかく、今年もあと2カ月で全日本総合、古道具屋の片すみに置かれたような旗とカップを見て、「またいい忘れた」と思われないために、今月号で書いておくことにした。

ゲーム中のボールスピードについて

強化部トレーニングドクター群

ハンドボールの試合中のゴールショット（シュート）時のボールスピードは、どの程度のものだろうか。いままで正確な値は知らされていない。その理由は、次の通りである。

球速測定法として、現在以下の三法が用いられている。エネマトグラフィー（高速度撮影によるフィルムからの分析）、二点間移動時間法（光電管フォトセル法）、スピードガンの三法である。

シネマトグラフィーは、撮影、現像、分析という段階を経て球速が求められるもので、正確である反面、時間がかかり、同時に二方向から撮影しなければ正確性を失うこと、およびゲーム中のゴールショットを追っかけようとすると膨大なフィルムを必要とすること、など時間と経費が高くつく欠点をもっている。

二点間移動時間法はあらかじめ設定された二枚の電気の壁を、ボールが通過するときの衝撃が電子ストップウォッチを駆動停止させる仕掛けになっているので、選手の動きまわるコート内にての球速測定には適していない。

最近用いだされだしたスピードガンは、元来飛行機の位置、方向、速度を探知するために開発されたレーダー（Radio Detecting And Ranging）を自動車のスピード測定用に応用したものである。この方法の原理は、レーダーに接近するか遠ざかるかする物体に指向性のある超短波を発射し、その反射波を受けて速度をしらべるものである。したがって、ゴールショットの行き先方向でスピードガンをかまえておけば、プレーを全く妨害することなく即時に球速が判明する。ただし、その測定可能範囲は、12度の狭い範囲であるため、ゴールの真後ろにて構えるときには、正面からのシュートしか測定できない。なお、シュートは、上下、左右への角度をもつ（備差角）ので、その点は計算補正した値を用いる。

これら三つの球速測定法のうち、実際のゲームに応用出来るのは、最後に紹介したスピードガンであることは容易に理解出来ると思う。さて、このスピードガンを用いて実際のゲーム中の球速をさぐってみたので、その結果をハンドボール愛好者にお知らせする。

一九八一年9月16、17、18日、東京において第10回世界男子ハンドボール選手権大会東アジア地区予選が行われた際の日本対中国、日本対韓国戦における成績である。

中国選手の中では、17対18の対戦結果であった17点のうち6点を決めた左利のロングシューターでポイントゲッターの金百錬選手（背番号4）のゴールショットが84km／hであった。これはフローターとしての動きからボールを受け2歩のステップののちのジャンプショットであった。韓国の選手では左利のロングシューター崔太燮選手（背番号10）のジャンプショットが90km／hであった。また前後半あわせて6点を奪取した李相孝選手（背番号14）のペナルティショットは80km／hであった。日本選手では蒲生晴明選手のジャンプショットが88km／h、池ノ上幸司選手のジャンプショットが90km／hであり、大原真造選手の速攻時の走り込んできてからのジャンプショットが90km／hであった。

結果は以上のようなものである。サイドラインにほぼ平行にゴールに向って放つシュートは、試合中意外に少ないこと、ゴールキーパーやディフェンス、ゴールポストバーの陰にボールがかくれること、などで全てのゴールショットを測定しえなかったが、ハンドボールの実戦におけるゴールショット時のボールスピードは最高90km／h程度であることが判明した。ディフェンスを抜き去りゴールキーパーと掛け引きしながらゴールの枠内に投げ込むという精神的、肉体的ストレスのかかった状態でのコントロールされたショットであるから、練習中のものよりはやや遅いものであろう。

別の機会には、練習中の球速について報告したいと思っている。

参考：ゲーム前シュート練習
（2－3歩助走ジャンプシュート）

池の上	86，76，83，79
斉藤（将一郎）	83，81，72
大原	79
蒲生	79，80，78，81
（高打点での高低差を利用しているのでスピードはそんなにない．	）
西山	87（速い）
関	73

IHF審判講習会報告(3)

光島磯雄
岡前義春

レフェリー観察のための10大原則

1観察者は、レフェリーに対して客観不偏性と誠実と適正さをそなえていなければならない。

2観察者は、確実な規則の知識とその最新の解釈をそなえていなければならない。

3観察者は、肯定的にせよ否定的にせよ（プラス面とマイナス面にわたって）確実に要点を把握認識し、それをレフェリーに言葉で伝える能力を持たねばならない。

4観察者は、教師的であるよりもむしろ助言者としてふるまうべきである。

5観察者は、その定位置をレフェリーと同じ眼高の場所に選ぶようにする。そして、ベテランと称する他のレフェリー達と行動しないように慎重にことにあたる。

6観察者は、試合前にレフェリーの独自性を尊重し、いかなる方法によってもレフェリーに影響を与えるようなことはしない。ハーフタイムには、もし破局的様相が現れているようであれば、1対1でレフェリーの控室で話すようにする。

7観察者は、試合終了後レフェリーに十分休憩させた後、講義調でなく開放的な会話雰囲気で話をする。このような機会が得られないという例外的場合には、観察者は記録に残すため書類の特記事項の欄に記入すべきである。

8観察者は、常にレフェリーが試合に与えたマイナス面よりもプラス面を優先強調してやるようにする。

9観察者は、両レフェリーの判定内容について評点をつけるが、この評点は後刻試合報告書に記入しなければならない。観察者がそれをすぐに実行出来ないときは、レフェリーに対したとえば4又は5点という具合に2種類の評点を与えてよい。この2種のうちのどちらかは後刻試合観察記録用紙に必ず転記しなければならない。

10観察者は、48時間以内にこの書類に3部作成し、1部はCH—Basel—4052, Lange Gasse 10、IHF宛発送し、1部は観察者自身が保管する。IHFは原本を保管し、その1部をRSK／IHFの資料とし、1部はレフェリーの出身地の審判部長宛送付するものとする。

SR観察の評価基準と態度についての解説

◎根本原則

○このSR観察の10原則に十分注目すること。

○この解説を研究することにより厳粛なる自己規則の前提とすべきである。

○この解説では試合規則の全部におよぶ遂条列挙であるとか評価表への追加と考えるよりも、手引きメモとして試合前短時間のうちに一読すべきものである。

I何を評価するか

A規則の適用内容

1相手に対する動作

特に——プレーヤーはボールを持ってか又はボールなしで正しく相手をブロックしているか？

——プレーヤーは、ハードなプレーとラフなプレーにその限界を正しく認識しているか？

——何度もくり返される反則、たとえばプッシング、ホールディングなどに罰則を与えているか？

——ボールを持ってか又はボールなしでの粗暴反則をその都度見わけているか？

2罰則適用基準

○フリースロー：全面的に規則に適合しているか？

○7mスロー：コート全面での明らかな得点チャンスを潰す規則違反を見抜いているか？ 又は適用が多過ぎてはいないか？

○指示、注意のタイミングが適切か？ 遅過ぎではないか？ プレーヤーやチーム役員はベンチに居るか？ 又は交代地域にいるか？ （監視を怠っていないか？）

○退場処分——タイミングが正しいか？ 又は遅過ぎではないか？ 再三くり返される反則か？

負傷事故の恐れある反則か？

○失格処分——同一プレーヤーの3回目の退場処分による付加的継続罰としてか？ プレーヤー、チーム役員の挙動に監視を怠っていないか？

○追放処分——暴力行為なのか？ 状況を正しく把握判断しているか？

3他のルールについて

特に——交代ベンチの着席状態については？ タイムアウトのとり方については？ ステップについての反則は？ ゴールエリアへの侵入については？ アドバンテージルールについては？ 消極的プレーについては？

Bレフェリー個人の印象について

1個人的人柄と態度、物腰、外観

○行動が自然か又は不自然か？ 遠慮勝らか？ 神経質か？ 横柄か？

○確実か又は優柔不断か？

○おもいやりある態度か？

○代償的（埋め合わせ）に偏っていないか？

○動作表示（ゼスチュア）に集中力を欠いていないか？

○稀にしかおこらない判定についても正しいタイミングで勇気を示したか？

○声援、応援に影響されなかったか？

○プレーヤーと話をしなかったか？

○プレーヤーに対するレフェリーの行動は？

。正しかったか？

。苛酷、峻厳であったか？

。我物顔にふるまっていなかったか？

。ろぬぼれ、生意気ではなかっ

たか？
。挑発的、無礼なことはなかったか？

２レフェリーのチームワークについて

○両者は密接にチームワークをとって行動したか？
○判定は常に一定一致していたか？
○重要なタイミングで一方は他方をよく助けたか？
○一方が他方に優越支配的であったり、実際に支配したりしたことはなかったか？
○GレフェリーとCレフェリーの交代は円滑だったか？
○両者はサイドの交代をしていたか？
。支障なくやっていたか？
。妥当な間隔、タイミングともに適切な時期にやっていたか？

３動作による表示と笛の吹き方について

○ゼスチュアは簡単明瞭であったか？
○ゼスチュアの指示表現は自然であったか？　又は部分的に挑発的な点はなかったか？
○ゼスチュアと吹笛の関係は自然だったか？　又は遅過ぎることはなかったか？
○吹笛が常に一定であったか？　又はその音の強さ、長さに変化をつけるようにしたか？

４位置どり動作について

○位置どり動作が自然で目立たぬものであったか？　又はプレーを阻害するようなことはなかったか？
○一方のレフェリーはCレフェリーとして適当なポジションに居たか？　又は試合の実際面から離れすぎて居なかったか？
○心身の状態が良好であったか？　又は不十分であったか？

C全体的印象

全面的試合運行についての評価

○試合運行態度は適正だったか？
○判定基準は終始不変で状態に合致していたか？
○試合運行中終始忍耐的であったか？
○試合内容を確実に把握していたか？
○遅すぎた吹笛で試合内容の把握に失敗しなかったか？

他の肯定的（プラスの面）な面と否定的（マイナスの面）な面にわたる注意すべき事項として、

○必要ならば言葉で総合判断を示してもよい。
○試合の様相について特記事項の有無。
○レフェリーとの会談が出来ない場合は、そのむね報告書に記入する。

Ⅱどのように評価するか

根本原則

この点数評価は、試合の様相や困難度について考慮する必要はない。純粋に試合運行に関してのみ評価すればよい。試合内容に問題点があれば観察者は「その他の事項」と標題を付けて補記してよい。

▽６点

○運行の出来栄えが大変良好である。
○試合運行に影響あるミスのないこと。
○明確で統一性ある一線を維持していること。

▽５点

○運行状態がおおむね良好である
○若干の（２～３回）ミスあり。
○試合運行に影響するミスのないこと。
○試合運行に関しミスのないこと

▽４点

○ほぼ良好な運行状況（まあまあの状態）。
○ある特定の場合に再三ミスをおこす。
○試合運行に影響するミスのないこと。
○部分的に統一性を欠く。

▽３点

○試合運行に一層の工夫を要する
○いろいろな場合に欠点を露呈する。
○試合運行に影響あるミスを時々おこす。
○部分的に統一性を欠く。

▽２点

○行状況がまずい。
○多くの場合にしばしば欠点を露呈する。
○部分的な試合運行に累積的にマイナスをおよぼすミスをおこす
○統一性の全面的な欠如。

▽１点

○我慢ならない状況。
○試合とその本質に重大な影響をおよぼすミスをおこす。
○全くの無定見。

〔訳・光島磯雄〕

不正交代の対処々置

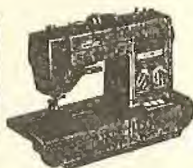
事例 ／ プレーヤー	17：5ａ，ｄと17：7を除いた不正入場の後何らの行為もせぬか，何らかの行為をした時	17：5ａ，ｄに関して何らかの行動をなした時（重大反則）（反スポーツマン行為）	17：7に関して何らかの行動をなした時（暴力行為）（極端な反スポーツマン行為）
交代プレーヤー（正規登録の）	2分間退場	失格＋2分間退場（交代プレーヤーが2分後に入る）※	追放（人数を欠いたまま試合をさせる）
退場処分中のプレーヤー（時間経過以前に入ること）	残り時間と2分追加	残り時間と失格＋2分 ※	残り時間を含み全時間追放
出場資格のないプレーヤー	失格させ2分間退場（交代プレーヤーが2分後に入る）※	失格させ2分間退場（左に同じ） ※	追放

※印の個所の場合チーム人数は減少させられる。

退場の残り時間がある場合，そのチームはその残余時間中チームの誰かを指名してその償いをさせねばならない。

チームが規則に反して人数を補完したときも同様である。もし当該チームのコーチが，退場プレーヤーの指名を拒否したときは，レフェリーがそれを実施する。そして，この罰則適用のときは，スコアシートに指名されたプレーヤーの過失として付加記録しなければならない。






びわ湖国体地域予選記録

〜報告分のみ〜

北海道

▼成年男子準々決勝
有斗ク 33―25 千歳ク
大谷ク 28―21 ハイ・ブリッヂ
ポイントジャック 20―18 翔球会
湖陵ク 39―12 メディアシティ

▽同準決勝
有斗ク 31―20 大谷ク
湖陵ク 39―11 ポイントジャック

▽同決勝
湖陵ク 20―19 有斗ク

▼成年女子決勝
室蘭商OG 15―14 釧路ク

▼少年男子準決勝
函館選抜 24―14 釧路湖陵高
釧路商高 22―20 室蘭選抜

▽同決勝
函館選抜 29―16 釧路商高

▼少年女子準決勝
釧路星園高 7―6 函館ジュニア
函館選抜 11―5 釧路商高

▽同決勝
函館選抜 18―9 釧路星園高

東北（第8回東北国体）

▼成年女子1回戦（2試合）
宮城 18―11 山形
秋田 15―13 青森

▽同準決勝
福島 34―13 宮城
岩手 23―7 秋田

▽同決勝
福島 17―10 岩手

▼少年男子1回戦（2試合）
青森 24―17 岩手
宮城 25―12 山形

▽同準決勝
福島 23（分）23 青森
PTC 9―8で福島の勝ち
秋田 18―16 宮城

▽同決勝
秋田 22―21 福島

▼少年女子1回戦（2試合）
福島 18―17 青森
宮城 8―7 山形

▽同準決勝
福島 12（分）12 岩手
PTC 6―5で福島の勝ち
秋田 14―5 宮城

▽同決勝
秋田 18―13 福島

関東（第1回関東国体）

▼成年女子準決勝
茨城 25（延）23 埼玉
東京 35―16 群馬

▽同決勝
茨城 26―14 東京

▼少年男子準決勝
東京 19―11 山梨
埼玉 27―13 群馬

▽同決勝
東京 20―15 埼玉

▼少年女子準決勝
山梨 10―9 神奈川
千葉 9（延）7 茨城

▽同決勝
山梨 12―9 千葉

北信越（第1回北信越国体）

▼成年女子1回戦（1試合）
富山 18―10 新潟

▽同準決勝
長野 23―12 福井
石川 40―5 富山

▽同決勝
石川 26―11 長野

▼少年男子1回戦（1試合）
富山 21―14 福井

▽同準決勝
富山 23―10 新潟
長野 24―17 石川

▽同決勝
富山 20―17 長野

▼少年女子1回戦（1試合）
富山 18―6 福井

▽同準決勝
石川 21―0 新潟
富山 19―4 長野

▽同決勝
石川 13―6 富山

東海（第1回東海国体）

▼成年女子決勝
三重 41―5 岐阜

▼少年男子決勝
愛知 25―21 三重

▼少年女子決勝
愛知 14―6 静岡

近畿

▼成年女子リーグ
京都 14―11 大阪
和歌山 16―13 兵庫
京都 26―12 奈良
大阪 9―7 和歌山
京都 18―11 和歌山
兵庫 13―2 奈良
大阪 15―9 兵庫
和歌山 17―11 奈良
大阪 17―9 奈良
京都 15―13 兵庫
①京都②大阪が代表権を獲得

▼少年男子リーグ
大阪 19―9 兵庫
奈良 22―19 京都
大阪 32―6 奈良
兵庫 18（分）18 和歌山
大阪 28―20 京都
奈良 15―13 和歌山
大阪 33―13 和歌山
兵庫 24―12 京都
京都 21―17 和歌山

兵　庫 24―18 奈　良
①大阪②兵庫が代表権を獲得

▼少年女子1回戦（1試合）
大　阪 9―3 奈　良
▽同準決勝
和歌山 11―7 京　都
大　阪 10―8 兵　庫
▽同決勝
和歌山 10―8 大　阪

中国

▼成年女子準決勝
山　口 36―13 鳥　取
広　島 36―8 島　根
▽同決勝
山　口 17―14 広　島
▼少年男子準決勝
山　口 35―19 岡　山
広　島 24―19 鳥　取
▽同決勝
山　口 33―16 広　島
▼少年女子準決勝
広　島 18―11 岡　山
山　口 20―2 鳥　取
▽同決勝
広　島 10―8 山　口

四国

▼成年女子準決勝
香　川 14―12 徳　島
愛　媛 15―14 高　知
▽同決勝
愛　媛 21―7 香　川
▼少年男子準決勝
愛　媛 27―9 高　知
香　川 25―16 徳　島
▽同決勝
愛　媛 26―12 香　川
▼少年女子準決勝
愛　媛 18―14 徳　島
高　知 14―9 香　川
▽同決勝
愛　媛 17―8 高　知

九州（第1回九州国体）

▼成年女子準々決勝
熊　本 32―1 宮　崎
佐　賀 24―7 沖　縄
福　岡 15―12 長　崎
大　分 18―15 鹿児島
▽同準決勝
熊　本 24―5 佐　賀
福　岡 21―13 大　分
▽同決勝
熊　本 35―4 福　岡
▼少年男子準々決勝
熊　本 22―11 佐　賀
宮　崎 22―14 長　崎
鹿児島 25―22 沖　縄
福　岡 27―16 大　分
▽同準決勝
宮　崎 18―16 熊　本
福　岡 19―16 鹿児島
▽同決勝
福　岡 23―19 宮　崎
▼少年女子1回戦（3試合）
佐　賀 21―5 長　崎
大　分 17―4 鹿児島
福　岡 12―5 宮　崎
▽同準決勝
熊　本 15―12 佐　賀
福　岡 17―10 大　分
▽同決勝
熊　本 12―9 福　岡
熊本のほか、沖縄が推せん出場

◇

ミニ国体（ブロック国体）システムを採っている東北、東海は成年男子部門を本大会に関係なく行った。

▽東北決勝
秋　田 30―23 岩　手
▽東海決勝
愛　知 43―6 岐　阜

全県参加、当分「成年」で

日本協会常務理事会

日本協会は、国体に関連して当面かかえている課題を、5月以降毎月の常務理事会で検討しているが、11月の全国評議員会、同理事会を前にして、このほど、一応の執行部案をまとめた。

それによると、来年以降の全県参加種別については、現行のままつづけていくことになり、すでに決定している来年の女子、58年の男子につづき、「59年女子、60年男子、61年女子」までを提案する。

成年部門の男女交互制を、当分つづけていくことになり、すでに決定している来年の女子、58年の男子につづき、「59年女子、60年男子、61年女子」までを提案する。

日本リーグ加盟チームの国体辞退問題は、地方協会の多くがそれを望むと伝えられながら、いぜん「強者排除」には問題を残すという考えも根強く、決定的な方針を打ち出せぬままとなっている。

いまのところ、11月の両会議で結論を導ける見通しは、ほとんどなく、少なくとも57年度は現行通りというのが、執行部の考えで、58年度以降に〝辞退〟の方向へ持っていくかどうかを論点とする意向。

【編集後記】本年度の日本ハンドボール界にとって大変重要な意味を持つ世界男子選手権のアジア予選で、日本は大苦戦をしたものの中国、韓国を倒して7回連続して代表権を獲得した。

アジアではNO1を自負していた日本だが、今回は大会前から一部で不安感もあり、試合を終えるまで絶対の安心感を持てなかった事実、第1戦の対中国戦では後半の途中までリードを許し、逆転後も再々にわたってピンチを招くなど苦しい戦いだった。それだけに代表権を獲得して関係者の喜びもより大きなものがあっただろう。

毎度のことながら機関誌の発行が遅れてしまい読者の方々にはお詫びのしようもありません。今後ともよろしくお願い致します。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇一号
昭和四十年六　日 第三種郵便物認可
昭和五六年九月二十五日印刷 昭和五六年十月一日発行
都渋谷区神南一－一－一
代表(467)七〇九七
振替東京六－五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）

株式会社アシックス



一歩速く。

鋭いダッシュ、確かなストップがゲーム展開を有利にする。



アシックスタイガーのハンドボールシューズはスタートダッシュが鋭く速くでき、ストップが確実にできるシューズマシンです。
だから どのような状況のプレーにも「一歩速く」スムースに動くことができます。従ってディフェンスを抜くことも容易でノーマークの状況をつくり出すことができます。また「攻」から「守」への転換もスムースで速くできます。
勝つために この一足を ぜひ。

asics TIGER
Handball Shoes
ハンドボールBK

ハンドボールBK（THH703） ■甲被は牛皮カラーベロア。 ■底はノンスリップ意匠底。 ■タコの吸盤の原理を応用した特殊ソール。
■レッド×ホワイト、ブルー×ホワイト ■サイズ 22.5〜28.0cm